

【取扱い厳重注意】

平成24年1月13日

聴取結果書

東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会事務局

局員 仁保智紀

平成23年12月21日、東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証のため、関係者から聴取した結果は、下記のとおりである。

記

第1 被聴取者、聴取日時、聴取場所、聴取者等

1 被聴取者

経済産業省大臣官房審議官（総務担当） 貞森 恵佑

2 聴取日時

平成23年12月21日午後1時30分から同日午後4時30分まで

3 聴取場所

経済産業省本館17階 第4特別会議室

4 聴取者

関谷直也 チーム員

高嶋智光 参事官

飯崎準 参事官補佐

岡田幸大 参事官補佐

三田浩平 主査

仁保智紀 主査

齊藤修啓 主査

5 ICレコーダーによる録音の有無等

あり

なし

第2 聴取内容

事故対応全般について

第3 特記事項

以上

【取扱い厳重注意】

○質問者 では、改めましてよろしくお願ひいたします。

冒頭、私の方から全体的なお話を伺えればと思っております。私は、仁保と申します。よろしくお願ひいたします。

本題に入らせていただく前に、このたびの事故に際して、総理秘書官でいらっしゃったということなんですけれども、危機対応時に、特に事故の所管官庁出身の秘書官である方が、どういった役割を担うことを期待されているのか、また、今回の事故対応で、結果的にどういった役目を果たすことになったのかということ、大まかで結構ですので御印象をお伺いできればと思います。

○貞森審議官 私は、経済産業省出身の秘書官でありまして、総理秘書官というのは何人かいるわけなんですけれども、担当が決まっています、基本的には出身の省庁にとどまりませんが、私の場合は、例えば環境省あるいは内閣府の一部も担当しておりましたけれども、そういう分野を担当するというものであります。

したがって、特に今回の事故の関係で言えば、原子力安全・保安院であり、あるいは資源エネルギー庁を含む経済産業省を担当している秘書官として、例えば保安院あるいは資源エネルギー庁に対する連絡とか、調整とか、そういった窓口としての機能もありますし、そういった分野を担当する事務の秘書官としての仕事をしていたということですね。

○質問者 そうしますと、基本的に総理と一緒に行動をされて、指示を受けたり連絡役としてつなぎ役をされるような。

○貞森審議官 基本的にはそうですね。

ただ、当然のことながら総理自身の行動の中には、例えば政務の方々のみの会議というものもありますし、いろいろなことをやりながらですので、必ずしも総理の動きを全部追っているわけではなかったと思います。

○質問者 もう一点、前提的な話なんですけれども、今回非常に専門性の高い知見が求められる事故であったかと思うんですが、以前に原子力行政であったり保安院で業務をされたことはございますか。

○貞森審議官 保安院で業務をしていたことはありません。一番近い分野という意味では、資源エネルギー庁の公益事業部計画課というところの総括の補佐をやっております、そこで電力行政全般の話をしていました。

そこで、例えばちょうどあのころは阪神・淡路大震災が起こって、原子力発電所への影響はどうなんだという御議論も国会ではありましたし、任期の終わりの方では例の「もんじゅ」の事故等もありましたし、もともと電源開発（J-POWER）が ATR という特殊な実用炉をつくるという話だったものを、フル MOX 型の軽水炉に切替えるといったオペレーションもやっておりましたので、そういった意味で電力行政全般をやる担当として、その中に原子力も含まれていたという範囲では、原子力についての知見は、勿論専門家というわけではありませんが、ある程度はございました。

○質問者 それでは、事故発生後の動きということで大まかで結構なんですけれども、3

【取扱い厳重注意】

月 11 日に地震が発生しまして、その後、こういった動きをされたかというのを簡単に御説明いただけますでしょうか。

○貞森審議官 もう詳細は覚えておりませんが、地震発生当時は、もう皆さん御承知のとおりだと思うんですけども、菅総理は決算委員会に出席をされていました。私は、たしか午前中の審議のときは決算委員会の現場にいたと思うんですけども、午後、地震が起こったときの質疑は自分が担当する答弁は予定されていなかったもので、私は官邸の方におりました。

それで、地震が起こった直後に総理が官邸の執務室に戻ってこられて、戻った直後に総理を本部長とする緊急災害対策本部が設置されて、3時半ごろだったと思うんですけども、地下の危機管理センターで、第1回の緊急災害対策本部というのが開催されたということで、私もその緊急災害対策本部が開催された地下の会議室には総理と一緒に行って、その会議に出ておりました。

○質問者 その後、事故が発生して、10 条通報、15 条事態の通報というものがなされてくるんですけども、そういった情報を秘書官はどういったタイミングでお聞きになられたかというのは、御記憶がございましたでしょうか。

○貞森審議官 いつだったかという、必ずしも記憶がありません。特に 10 条通報について、果たして総理に対しての報告があったか、あるいは、もしあったらいつだったかというところは、正直に申し上げて私は記憶がありません。

15 条通報については 17 時半過ぎに、記録によれば 17 時 42 分ということらしいんですけども、海江田経済産業大臣の方から総理に対して 15 条事象についての報告がなされて、原子力緊急事態宣言に関する上申書が提出されています。

○質問者 それ以前については、秘書官御自身も 15 条事態が発生したことについて何か話が先に入っているとかですね。

○貞森審議官 ということはなかったと言ったらあれなんですけれども、記憶にないですね。

○質問者 これは以前に聞いた話になるんですけども、緊参チームの要員として寺坂保安院長が官邸地下にいらっしゃいまして、17 時ごろに官邸 5 階に総理の指示で呼ばれて、状況の説明を求められたというふうに伺っておるんですけども、総理から院長を呼ぶようにとか、そういった指示があったりとかは。

○貞森審議官 院長を呼べと言われた記憶はありません。ただ、あの日の午後は、それが 17 時なのかどうかはわかりませんが、一度、寺坂院長が来られて、非常用ディーゼル電源がとまって、要するにすべての電源がとまったという報告を寺坂院長の方から総理にしたのは記憶しています。ただ、それが 17 時なのかどうかはわかりません。もう少し早かったかもしれません。

○質問者 そのころには、もう総理が 5 階に上がられているわけですね。それは災対本部が終わって、その後総理は上がられたということですか。

【取扱い厳重注意】

○貞森審議官 災害対策本部が終わって、総理は5階に上がっていきました。災害対策本部でどの程度の時間を過ごされたかというところもはっきり記憶がないのですけれども。

○質問者 御一緒に上がられているということでしょうか。

○貞森審議官 一人で戻った記憶はないので、たしか戻るときも総理と一緒にいたのではないかと思います。

○質問者 官邸5階で寺坂院長が説明をされていたときは、秘書官も御一緒にいられたらいい。

○貞森審議官 その17時のときかどうかはわかりません。もう時間を覚えていないんです。

とにかく私が覚えているのは、寺坂院長が、津波でというところまで説明していたかな、多分津波でという説明だったと思いますけれども、非常用のディーゼル電源もとまってしまって、すべての電源がない状態になっているという点を報告されていたのは記憶しています。それは、その場におりました。

○質問者 その寺坂院長を呼ばれた後に、総理が、東電の武黒フェローと■■■■部長という方を官邸5階に呼ぶようにという指示をされて、実際にこの二人が東電本店から官邸5階に向かっているようなんですけれども、東電の人を呼んで説明をさせてほしいとか、そういったやりとりは覚えていらっしゃいますか。

○貞森審議官 具体的にいつ東電に対して呼べというふうに言われたかというところは、はっきりとあれないんですけれども、ただ、初日の夕方から夜になるような時間帯でしょうか、東京電力の武黒さん以下3～4人の人たちが官邸に来て、状況についての説明をされていたことは記憶しています。その後、武黒さんたちは、基本的にはずっと官邸の5階にいるような状況だったですね。

○質問者 その後、海江田大臣が17時42分に原子力緊急事態宣言に係る上申をされに官邸にいらっしゃったわけなんですけれども、その当時は、たしか細野補佐官であったり、寺田補佐官であったり、枝野官房長官も総理の執務室ないしはその辺りにいらっしゃったと聞いておるんですが、そういった政治家の方が集まってきたのがいつごろだったかというのは、御記憶がございしますか。海江田大臣がいらっしゃる前に、もう皆さん集まっていたような状況だったのか。

○貞森審議官 その日の夕方には、細野さんはいましたね。寺田さんの官邸の滞在時間は、あのころはまだ補佐官をやっていましたし、官邸に大体いつもいるのは寺田さんだったので、寺田さんも直後には官邸にいたと思います。細野さんはいましたね。寺坂院長が、ディーゼル発電機がとまったという説明をしたときには、細野さんがいたことは記憶していますね。

○質問者 このとき、もう既に15条通報は保安院の方になされていて、上申を総理にされるということは、経済産業省内では総理に上げるという意味決定がされて、官邸にいらっしゃっているわけなんですけれども、その段階で秘書課を通じてその情報が先に入ってきていたりということはありませんでしたか。

【取扱い厳重注意】

○貞森審議官 ということはなかったと思います。

○質問者 では、海江田大臣がいらっしゃるということも御存じではなかったということですか。

○貞森審議官 海江田大臣は、発災直後はもう下の管理センターにもいましたし、その後また戻られてから来たのかどうか動きはわかりませんが、あのころは別に、海江田さんが一々、今から行くとか行かないとかという連絡があるような状況ではなかったと思います。

○質問者 では、海江田大臣がいらっしゃって、総理に初めてこういう状況が起こっていますということが伝わった。

○貞森審議官 はい。

○質問者 その官邸5階で上申をされたときのやりとりなんですけれども、具体的に御記憶はございますか。

○貞森審議官 具体的にどういうやりとりがあったかというところは、もう覚えてないですね。

全部通していたという記憶もないんです。だから、あのときは何かで出たり入ったりしていたんだと思います。

○質問者 幾つか御記憶を喚起できればと思うんですけれども、総理は小森常務と直接お電話をされたと聞いております。最初、東京電力の武黒フェローらが官邸5階にいて、海江田大臣も説明に上がって来られた。ただ、実際に東電本店で対応に当たっている人と話をしたいと総理がおっしゃって、東電に電話をかけられたということをおっしゃるんです。

○貞森審議官 東電の小森常務と総理の間の会話というのは、私もつないだ記憶があります。ただ、それはもう日が暮れた後だったと思います。

○質問者 5時半以降ですか。

○貞森審議官 そんなものではなくて、もう8時とか9時とか、そういうタイミングからだったと思います。勿論その前に何らかの形で総理が小森常務と話をされているとすればわかりませんが、少なくとも私が取りつないだのは、もう8時とか9時とか、そんなタイミングだったのではないかなと思います。

○質問者 もう一点、上申をされているときに、途中で総理が与野党の党首会談に出席をされたというふうに伺っておるんですけれども、この出席の際に出て行かれるときというのは、秘書官は一緒におられましたか。

○貞森審議官 まず、そもそもその種の党首会談とか何とかという話のときには我々はついていくことがないので、その動静は一緒にしていません。たしか海江田大臣から説明をしていて、野党の党首が来て待っているとかが総理に伝わって。

○質問者 それは別の秘書官から話が。

○貞森審議官 そうですね。それはもともと私がつなぐような話ではないので。

それで、総理はやむを得ず短時間そちらの方に顔を出されて、またすぐに戻ってきたと

【取扱い厳重注意】

いう動きだったと記憶しています。

○質問者 そのときに、例えば先に緊急事態宣言を出してしまった方がいいのではないかとか、与野党党首会談を優先すべきなのではないかとか、そういう議論があった御記憶はございますか。

○貞森審議官 どっちがどうこうというあれはなかった気がします。勿論、総理が自らの中で迷われたことはあったかもしれませんが、ちょっとそこはわかりません。

○質問者 周りにいらっしゃった関係の方が、行った方がいいのではないかとか、そういうことをおっしゃった。

○貞森審議官 それは覚えてないですね。

○質問者 もう一点、これもまた別の方から伺った話なんですけれども、その上申の当時、貞森秘書官が官邸5階の執務室と秘書官室を出たり入ったりされていて、その中で、電源車の手配をする必要がありますということを秘書官の方から総理におっしゃって、恐らくそれが官邸地下に降りて、オペレーショナルな検討が始まったのか加速されたのかはよくわかっていないんですけれども、そういった話があったと聞いておりまして、そういったお話をされた御記憶はございますか。

○貞森審議官 電源車の話ですか。

○質問者 はい。

○貞森審議官 電源車は、正確にだれがどのタイミングでというのは覚えていないんですけれども、その日の一連の夕方から夜にかけての総理への状況の説明の中で、電源がすべて途絶えて、たしか当時は隔離冷却系という言葉が使われていたと思うんですけれども、バッテリーで動く水の循環を行う装置があって、たしかそのバッテリーが8時間分ぐらいは動くのだというような説明があって、まずはそのバッテリーがとまらないようにしないとけないので、バッテリーに対する充電をするため、更にはそもそもだめになった非常用ディーゼル発電機の代わりをするために電源車を確保しなければいけないという説明が、何時かは覚えてないんですけれども、夕方から夜にかけてのタイミングでありました。

○質問者 それは東電からあったということですか。

○貞森審議官 東電だったか保安院だったか、具体的にだれが説明したかというのは覚えてないですね。ただ、あのときはたしか東電も保安院も、それが必要なんだということを言っていたと思います。したがって、電源車をとにかく調達しなければいけないんだということで、それは東電自身もいろいろなところに持っていて、八王子とか那須とか、いろいろなところにある。その後で聞いたら、たしか東北電力も一部、電源車を回そうとしていたと思います。

とにかく電源車を送らなければいけないという話があって、その点は総理も物すごく心配をされていて、たしかそこで東電の小森常務に対してだと思えますけれども、何でも必要なことはやるので、手伝うのであってほしいと。例えば自衛隊のヘリコプターとか、自衛隊を使う必要があるのであればこちらの方でやるので、何でも必要なことは言ってほし

【取扱い厳重注意】

いという話を、総理の方から東京電力に対して話をしていました。

実際に、電源車が自衛隊の輸送用のヘリに乗るのかとか、そういったことも議論されていた記憶があります。

○質問者 そういった場合に、秘書官から直接東京電力にどういうニーズがあるんだというのを問い合わせられた記憶はございますか。

○貞森審議官 ある意味では、総理がそういうふうに言っていましたし、いろいろな現場現場で、実際に自衛隊の本部、そっちの東京電力、そこはちょっとよくわかりませんが、私自身がそのつなぎをやった記憶はありませんけれども、そういう状況だったものですか、防衛省から前田さんという秘書官がおりましたので、彼の方から自衛隊の方に連絡をして、例えば自衛隊のヘリで運べるかということに関しては、電源車のスペックが必要になるので、電源車というのは幅、長さ、高さが何メートルずつで、重さがどれぐらいなのかというようなものを教えてくれと、たしか私が東京電力に聞いていた記憶があります。直接東電にやっていたか、あるいは保安院ないしエネ庁にやっていたのかは記憶していませんけれども、そういった連絡をしていた記憶もあります。

○質問者 通常、秘書官がお電話をされるとなると、例えば保安院ではどの方とか、特定に決まっているわけですか。

○貞森審議官 別に特定に決まっているというわけではありませんけれども、私から連絡するので一番多かったのは片山企画調整課長だと思います。

○質問者 東電では、だれかと直接話をされた御記憶があるとか。

○貞森審議官 東電に直接というのは余りなかったと思いますが、総理からの電話をつながなければいけないので、あの日の夜は確かに小森常務に何度か、携帯で電話をした記憶があります。小森常務と話をすることもありましたし、もっと多くの場合はそのまま携帯電話を総理に渡して、総理から小森常務にということで話をした記憶があります。

○質問者 与野党党首会談から総理が戻ってこられて、電源車の話もあって、最終的に総理は緊急事態宣言の発出を了承されるのですが……

○貞森審議官 済みません、今の電源車の調達云々は緊急事態宣言を発出した後だと思います。

電源車がどうなっているんだとかというのを聞いていたのは、たしか最初の第1回目の原災本部が終わった後だったのではないかと思います。ひょっとしたら原災本部が始まる前にそれが始まっていたかもしれませんが、ちょっとその前後関係は記憶にないんです。

ただ、これはむしろ東京電力に聞いていただいた方がいいと思いますけれども、実際に電源車が動き始めたのは7時とか8時とか、そういうタイミングだったのではないかと思います。そこは済みません、正確な前後関係は覚えておりませんが、電源車のオペレーションが一番ピークで、総理の方が、例えば自衛隊を出してもいいからとか、そういう連絡を東京電力にしていたのは19時の非常事態宣言発出と、第1回目の原子力災害対策本

【取扱い厳重注意】

部の開催の後だったと思います。

○質問者 そうしますと、ちょっと相前後してしまって恐縮なんですけれども、総理が緊急事態宣言の発出を了承されて、その後、第1回の原災本部会合というのが19時過ぎに開催されておるんですけれども、総理が了承されたときのやりとりとかは御記憶がございましたか。

○貞森審議官 覚えてないですね。済みません。

○質問者 その後、総理は了承されて、原災本部会合のある場所に皆さんで移動されたかと思うんですけれども、秘書官も御一緒されて出席されましたか。

○貞森審議官 ええ。第1回の原災本部は4階の大会議室だったと思うので、それは階段を下りたらすぐそこというところですから、たしかそこは全秘書官が一緒だったと思います。

○質問者 その後、第3回の災害対策本部も引き続き行われまして、19時半過ぎぐらいまでやった。

○貞森審議官 併催だったかもしれませんね。しばらくの間は別々ではなくて、大体いつも一緒にやっていたんですね。

○質問者 そこに総理が出席されている場合は、基本的には一緒にいらっしゃったのですか。

○貞森審議官 いましたね。原災本部をやっているときは、何回か例外はあったかもしれませんが、基本的に同席したと思います。

○質問者 災害対策本部が7時40分ぐらいに終わりました、その後、総理はこのまま5階に戻られたんでしょうか。

○貞森審議官 多分そうだと思います。

○質問者 1点、今までのところで、当時、原災本部会議の席上配付資料というのはごらんになっていますでしょうか。

○貞森審議官 会議に出ていたのを見たと思います。

○質問者 原災本部長の権限を現地対策本部長に委任する関係の書類も席上配付されていたようなんですけれども、これについては何か保安院あるいは経産省の方から、こういうものもあるからよろしくという話を聞かれた記憶はございますでしょうか。

○貞森審議官 それはわかりません。あったかもしれませんが、なかったかもしれませんし、それは全く記憶にありません。

○質問者 その後の避難の関係で併せてお聞きしたいんですけれども、第1回の原災本部会議、災対本部会議が終わった後ぐらいからだと思うんですが、避難をどうするかということで、官邸5階で議論があったと聞いているんですけれども、その際、最初から総理がいたのか、それとも枝野官房長官の下である程度議論をしてから総理に上げたのかというところが、ちょっとわからないところがあるんですが、秘書官をされていたときの御記憶として、総理が避難の関係での議論をどのぐらい長い間、何時から何時ぐらいまでやって

【取扱い厳重注意】

いたかとかというのを覚えてらっしゃいますか。最初の3キロのときです。

○貞森審議官 これは質問項目でもいただいているんですけども、まず個別にどうだったかというのは覚えていません。

それで、全体的に避難の話は、基本的に先ほどおっしゃった話でいくと官房長官が中心になって議論をした。だから、むしろ枝野官房長官と福山副長官と、下ですね、内閣防災とか、伊藤危機管理監とか、そこら辺が中心になって議論をして決めていた。官房長官のところである程度決めて、総理に了解をとって出していたというのが基本的な流れだったと思います。

○質問者 官房長官を中心に議論していた場合には、貞森さんはいらっしゃったんですか。

○貞森審議官 入ってないですね。

○質問者 あと、細かいことなんですけれども、3キロ、10キロ、20キロといろいろ拡大されていっているんですが、3にした根拠とか、10にした根拠とか、20にした根拠というところは余り覚えていらっしゃらないですか。

○貞森審議官 それは全くわかりません。ただ、それはある程度、保安院とか原子力安全委員会とかで、事前に目安みたいなものが決まっていたということではないんですか。例えば10キロというのは、何かで決まっているんですね。

○質問者 EPZですね。

○貞森審議官 そういったものを参考にして、専門家の方で議論されて決められていたものだと認識しています。

○質問者 これを決めるときの大体の流れなんですけど、官房長官を中心に議論しているときの場というのは、総理応接室になるんでしょうか。

○貞森審議官 官房長官が中心になって議論しているときは、官房長官室でやっていたのではないですか。

○質問者 入られてないからわからないのではないですか。

○貞森審議官 わかりません。

○質問者 最後、総理に仰ぐときは総理執務室に入ってきてやられていたということですか。

○貞森審議官 というのが普通だと思います。ただ、個別個別でどうだったかというのは覚えてないですね。

○質問者 この中で3キロ、10キロというのは、当時いたいろいろな事務方の人から聞いて大体わかっているんですが、3月12日の6時25分に出ている20キロの部分が、まだちょっと判然としていないところがありまして、どうも海水注入の話とかを議論している中で出てきたというふうに聞いているんですが、この12日の海水注入の議論のときは、貞森さんもその場にはおられたんでしょうか。

○貞森審議官 これだけは覚えてます。3月12日の18時25分ですね。

○質問者 はい。

【取扱い厳重注意】

○貞森審議官 ここだけは覚えていまして、それは何でかという、海水注水の話が関係しているものですから。

この点は何度も、例えば国会などでも質疑されていて、総理は何度も答弁していますけれども、その日の夕刻、12日の夕方の段階で1号機に注入する真水が切れたか切れそうだという状況になって、その夕方になってどうするんだという議論になって、当然、真水がないので海水を入れるしかないという話になりました。

それで、海水注入をするという話なものですから、総理に報告をして、確認してからやろうということになって、18時ごろからだったと思いますけれども、総理応接室で保安院、安全委員会、東電、細野補佐官もいたと思いますが、そういった人たちで議論をしていて、総理に報告をして確認をとろうということで、18時ごろから総理を交えた形で会議を行いました。

そのときに、前提として、すぐに海水注水はできるんですねという話をみんな心配していて、そうしたら東京電力の武黒さんが、実は配管とかがちゃんとワークするかどうかとか、まだ確認しなければいけないので、そんなにすぐには入れられないんですという話があったんですね。まだそっちの方は時間がかかるという話だったんですけれども、とにかく海水注水は早くやらなければいけないということで決めたわけです。

それで、総理の方にその話をしたら、総理は、海水を入れるということは当然塩が入っているわけなので、そこは本当に大丈夫なのかという点を質問されたわけですね。それに対して班目委員長の方が「海水なので塩が入っていますから、余り長く入れていると腐食するかもしれませんし、塩が濃くなって詰まったりとか、塩が入ってくることによる問題がありますが、今は緊急事態なのでやらなければいけない」という説明をされて、そうしたら総理が「再臨界の可能性はないのか」という質問をされたんですね。

それに対して、これは私の記憶です、したがって、これは班目委員長側にはやや異論があるんですけれども、私の記憶では、そのときに班目委員長は「可能性はあります」というふうにおっしゃいました。班目委員長の事後的な説明は、ゼロではないという意味でそういうふうにおっしゃったということなので、その後、例えば国会答弁とか、あるいは東京電力の統合本部で、この海水注入の経緯については事後的に経緯を発表していますけれども、その紙では、班目委員長は再臨界の可能性はゼロではないという趣旨の回答をしたというふうにまとまっていると思います。

したがって、私の記憶は公定版とは違いますので、もし支障があるようであれば、その点は伏せていただいても構わないんですけれども、私は「可能性はあります」というふうに言われたと記憶しています。

何でそこだけ覚えているのかということなんですけれども、あのときは「可能性はあります」と言っているのを横で聞いて、私は本当に恐くなったんですね。本当に海水が入らなくなってしまうかもしれない。

そうすると、危ないではないかという議論になって、そうしたら総理は「だったら、そ

【取扱い嚴重注意】

の点は本当に大丈夫なのか」というふうになって、ちょっと再整理をしようということになったわけです。それが多分6時20分とか6時25分とか、6時～6時25分ごろにかけて総理の下での会議がありまして、その後、約1時間ぐらい、要するに、次に総理に説明するときはいい加減な説明ができないので、ちゃんと安全委員会と保安院と東京電力とみんな、再臨界の危険性はほとんどなくて、今はとにかく海水注水を急がなければいけないという説明をきちんとすり合わせて、7時40分ぐらいだったと思いますけれども、総理に再度説明をして、今度は了解をいただくんです。

その再臨界するかもしれないという話が出て、一度その会合が流れる直前のタイミングで枝野官房長官が「いずれにせよ、そういうリスクのある状態なのであれば、避難について対応しなければいけないのではないか」という発言をされて、たしかその場で、枝野官房長官と細野補佐官と、済みません、正確にわかりませんが、福山副長官と、その辺の関係者がいたと思うんですが、そこで大至急協議をして、避難範囲について広げる必要があるのではないかとということで、そういった結論を出したというふうに記憶しています。

○質問者 20は、このときに再臨界の可能性というのを契機にして、枝野さん、細野補佐官、福山官房副長官辺りで、その場で議論して。

○貞森審議官 そこは、むしろこれを具体的に検討された方々に聞いていただければと思いますけれども、再臨界がということよりも、それだけ炉が危ない状態にあるということですよ。

1号機は、事後的ないろいろな検証等では、とっくの昔に空だきになっていたということらしいんですけども、少なくともあのときの認識としては、まだ水はあるのではないかとこの前提で、真水が切れては危ないので、海水を入れなければいけないという前提での認識の議論だったんですけども、いずれにしても、1号機について非常に危険な状況であるということには変わりがないので、10で大丈夫なのかということで20に拡張されたという経緯だったと記憶しています。

○質問者 今の話の流れの中で、ブレークが入る直前のタイミングで、枝野官房長官が避難の範囲についての再検討の話を始められたということなんですが、その直前にといますか、6時ぐらいからの議論の中で、班目先生が再臨界の可能性はありますという趣旨のことを言われて、貞森秘書官が恐くなったという話をされておりましたね。その恐くなったという趣旨は、私が正確に理解しておれば、海水を入れるしかないのに再臨界という話が出たことによって水を入れるのが遅くなるのではないかとということで恐くなったという趣旨ですか。

○貞森審議官 そうです。海水注水をしなければいけないのは明らかでありまして、私は素人ですけども、結果的にはそうでなかったと思うんですが、少なくとも制御棒は全部入っているわけですね。制御棒は全部入っていて、仮にそれが少々損傷したとしても、制御棒の素材ごとだまみたいな状態になっているはずなので、再臨界なんて起こりっこない

【取扱い厳重注意】

んです。

だから、科学的にゼロだということは言えないと思うんですけども、つまり臨界というのは、減速材である水が非常にうまく具合に燃料と燃料の間に入って、そこで初めて連鎖反応が起こるわけですから、炉がいい状態であれば完全に制御棒が入っているし、悪い状態であればだまみたいになっているので、いずれにせよ再臨界なんか起こりっこないという程度の知識は私にもあります。しかも、塩が入っていようが入ってまいが関係ないのではないかと考えていて、だから、当然ありませんと答えるよなと思って横で見ているんですけども、そういうふうにちゃんと答えてくれなかったのです。

総理だって、そういう話を聞いてしまえば、すぐに入れるという話はできませんね。だから、海水注水が遅れてしまうのではないかとこのことで、非常に危機感を持ったということなんです。

○質問者 その後に、枝野官房長官が、そういうことならということで避難の話に行くわけですけども、そのときに枝野官房長官の認識がどうだったかということは枝野官房長官に聞かないとわからないんですが、貞森秘書官がそばで見ちゃって、枝野官房長官は再臨界があるというふうに思っちゃったんでしょうか。

○貞森審議官 それはわかりません。ただ、あのときの議論として、再臨界が起こることを前提に物事を考えていたということは多分ないと思うんですけども、そこはわかりません。

○質問者 そうすると、その議論は1号機の炉の状態がもっと大きく、再臨界も含めて何か危ない状態にあるぞということだったんですか。

○貞森審議官 もともと1号機については、結果的にはもっとひどかったんですけども、あのときはまだ水が残っている前提で、しかも海水を注水すればちゃんと冷却ができるという前提での検討でありますけれども、炉が非常に悪い状態であるということには変わりないわけですね。その認識は間違いないものだと思いますので、具体的に再臨界するからということではないと思いますけれども、それはむしろ避難の方の検討をされていた方々に、当時の真意はどうであったかということをやっていたらいいと思うんですが、私はとにかく再臨界するのかもしれないのかという問題について、1回終わった後で、どういうふうに整理して総理に再度説明するか、そっちの方ばかりで頭がいっぱいだったものから。避難の方はもともと余り関与していないので、そこについて責任のあることは申し上げられません。

○質問者 1点だけよろしいですか。

海水注入のやりとりをされたときに、海江田大臣はその場にいらした御記憶はありますか。

○貞森審議官 海江田大臣はいらしていました。その18時～18時25分ぐらいの会議のときには、海江田大臣はいらしていました。

○質問者 保安院さんからいただいたクロノロジー、時系列資料がございまして、その中

【取扱い嚴重注意】

の記載に、17時55分、まさに協議が始まる前ぐらいの段階で、海江田大臣から「海水注入をするように」という口頭指示が東京電力に出ていた。そういう話は、その時点では伺っていましたか。

○貞森審議官 全くありません。

○質問者 では、官邸5階の状況としては、海水注入に向けた作業を東電が始めているという認識はだれもなかった。

○貞森審議官 むしろ早くやってほしいんだけど、なかなか始められない、まだ準備に時間がかかるという話だと、武黒さんからは説明を聞いていました。

これは私自身ではないんですけども、18時25分に終わって、総理のところまで再検討をするということになって、19時40分ぐらいに再度入るんですけども、その検討している間のところでも、たしか部屋を出た直後ぐらいだったと思うんですが、武黒さんの方に「ところで、これはやるという話になったらすぐに入るんですよ」と聞いたら、まだ自信がないようなことをおっしゃっていたんですよ。

だから、我々はまだ、海水は少なくともその時点では入っていないくて、その点をどうするのかを検討しているという前提での議論でした。

○質問者 では、入れてよいという指示が出れば、いつでも入れられるように準備はしているという認識はあった。

○貞森審議官 そこは、そうだったと思います。

○質問者 そのブレイクの間は、秘書官御自身はどういったことをされていたんでしょうか。

○貞森審議官 ずっとそうだったかは覚えてないんですけども、かなりの時間は、保安院と安全委員会と東電の3者と一緒になって、どういうふうに論点整理するかというので、たしかあときは経済産業省の官房総務課長をやっている柳瀬君も一緒だったんですけども、彼が「こんなフォーマットで整理しましょう」と言って、論点を整理した紙のアイデアみたいなものを言って、「では、それで行こう」と言って、彼らが意見をまとめるのを横で見ているというか、それがほとんどの時間だったのではないかと思います。

○質問者 その協議にしろブレイクの間にしろなんですけども、海江田大臣がいらっしゃって、大臣から既に指示を出していますという発言はなかったですか。

○貞森審議官 なかったです。知らなかったです。それは、私はしばらく知らなかったですね。

○質問者 それでは、その情報は官邸の5階の中では全く共有されていないような状態であったということですか。

○貞森審議官 全く知らなかったです。

○質問者 実際に水が入り始めたという連絡が来たのは何時ごろかわかりますか。

○貞森審議官 海水の話ですか。

○質問者 はい。

【取扱い厳重注意】

○貞森審議官 何時も何も。

それからもう一つあって、19時40分に、総理に対して大丈夫ですので海水を入れますと言うときに、総理のところでの2回目の検討の方では、ホウ酸を含めて入れるということになって、それでやったわけですが、たしか8時ごろ、8時前だったかな、その結論が出て、総理了解だということになって連絡をして、ホウ酸も混ぜて入れるということになってやったということなので、それで東電はもうやっているんだろうというふうに思っていましたね。だから、いつから水が入り始めましたよという報告が具体的にあった記憶はないですね。

総理の了解がとれたぞという連絡をして、もともと東電は入れようとしていたわけですから、うまくいったんだろうなどその当時は思っておりました。

○質問者 そのときは、指示を出せば東電はすぐに動けるような状況であるという認識。

○貞森審議官 その点は心配だったんです。むしろ配管の準備がどうだとかいうところがボトルネックになるかもしれないという危惧は持っていましたので。

ただ、その後まだ入らないとかいう連絡は来ないので、間に合っとうまくいったんだろうという程度の認識だったと思います。ひょっとしたらちょっと違う連絡が入っているかもしれませんが、私の当時の記憶だとそういう認識です。

○質問者 調査の過程でこういうペーパー、これは確認書的なものですが、見覚えはございますか。

○貞森審議官 ないですね。これは何ですか。

これはいつごろの文書ですか。

○質問者 恐らく4月になってからではないかと思われそうですが、どうでしょう。

○貞森審議官 まさに1号機の海水注入の経緯については、国会で問題になったので、たしかTBSの夕方のニュースが契機だったと思うんですが、それで報道をされて割と大騒ぎになったので、かなりの時間をかけて経緯をとりまとめたんですね。最終的に、それは統合本部と保安院だったかな、その名前か何かで紙にして発表していますけれども、ただ、その内容はこれとは違いますね。

総理が入った会議で海水注入について議論したのは、たしか18時ぐらいからだったと記憶しています。それを調べていく過程で、実は17時55分に海江田大臣が指示を出していたんだということも後から判明して、それはたしか東京電力の中での福島でないところの原発か何かの、テレビ会議か何かの記録に何かが残っていたというので、海江田大臣に聞いてみたら「そうだったかもしれない」とかという話になって、たしかそういうことになったと記憶しているんです。

だからいずれにせよ、こういう形で、自分の名前が書いてあるので気持ち悪いんですけども、私はこれで相違がありませんなどというふうにコミットしたことはないと思います。

○質問者 どなたが起案されたかとか、どなたかからメールで、これでいいかという話が

【取扱い厳重注意】

来たとか、あるいはこの内容ではなくても、別の内容でこういう確認の連絡があったとか、そんなことはないですか。

○貞森審議官 ないですね。

ただ、これに関係して思い出すのは、総理が海水注入を指示したという紙が、たしか手書きのメモか何かが、危機管理センターか何かがまとめている時系列の中に入っているんですね。海水を使えと総理が指示したとかいう。何でそういう記録が残っていたのかというのはいらないんですよ。

それで、海水注入について、わざわざそこまで別途細かく関係者のみんなから話を聞いて経緯をまとめたんですけれども、それとは全く無関係に「18時に総理が海水注入を指示した」というあれが残っていて、それでおかしいではないかと、それがたしか国会でも追及の材料に使われたので、この18時に海水注入を指示したというのは間違いなんだから消さなければいけないのではないかという議論を、官邸の中でしていた記憶はあります。

○質問者 そうですか。

○貞森審議官 18時でなくて、19時55分というのは。

ただ、この紙は知りません。これは何ですか。

○質問者 これもいろいろな調査の過程で出てきているものでして、現段階ではどこからかというところは申し上げられないところなんです。

○貞森審議官 この2.と3.は大体正しいような気がします。19時半だったか、もうちょっと遅かったと思うんですけれども、19時40分ぐらいだったと思いますが、8時前ぐらいに総理が海水注入を決断したという、こちら辺は事実関係としては正しいと思いますが、手前のところはちょっと違うのではないかと思います。

○質問者 もう少し遅いということですね。

○貞森審議官 はい。

この紙の性格はよくわかりませんが、これはもうさんざん議論をして、最終的に一度、統合本部内で発表したところ、「再臨界の危険性はない」というふうに書いてあったところに班目委員長が激怒されて、これは報道されているんで皆さんは御存じだと思うんですけれども、班目委員長も交えて経緯を確認し最終的にまとめた、海水注入についてはその経緯書があって、それは統合本部だか保安院からプレスに発表されている紙があって、それ以上でもそれ以下でもないという整理になっていました。

○質問者 それはいつごろの話ですか。

○貞森審議官 まさに国会で質問されて、たしか最初に谷垣自民党総裁から質問された復興特だったか、予算委員会だったか、済みません。5月だったと思います。

○質問者 国会で問題になったのは、5月になってからですね。

○貞森審議官 5月だと思います。たしか日中韓サミットを福島でやる日だった記憶があるんですね。土曜日だったか。私はもともとそれに行く予定だったのを、この海水注入騒動で行けなくなって、細野補佐官とかも含めて、当時の事実関係の確認をずっとやってい

【取扱い嚴重注意】

た記憶があるので、それはたしか5月だったと思います。

○質問者 このときは18時に総理が最初に海水注入されたという話が表に出ていたと思うんですが。

○貞森審議官 海水注入の指示をしたということですね。

○質問者 貞森審議官の御認識では、

そういった話が表に出ていたのかという御認識でしょうか。

○貞森審議官 混乱した原因の1つでしょうね。何でそうなったのかはわかりませんが、それがすべてだとは思いませんけれども、原因の1つだと思います。

たしか国会でもその話が出たのではないのでしょうか。総理を追及して、おかしいではないかという議論があった。

○質問者 また外形的な、全体的な話にちょっと戻って、時間も相前後してしまって恐縮なんですけれども、官邸5階で主な議論がされて、海水注入を含めいろいろな議論がされていたかと思うんですが、一部報道で、官邸地下の危機管理センターの上にある中二階の小部屋と言うんでしょうか、小さな部屋で少数の政権幹部が集まって事故対応について議論がされていたというふうにも伺っておるんですけれども、そういった部屋で貞森審議官が総理と一緒にいて協議に陪席をされたとか、そういう御記憶はございますか。

○貞森審議官 それは記憶にないですね。

○質問者 総理がそこで実際に協議をされていたという御記憶はございますか。

○貞森審議官 それはわかりません。というのは、私はそれほど行っていないので。

勿論、総理が何がしか、打ち合わせをしていた可能性も当然あると思うんですけれども、私はそこに同席していないと思います。

○質問者 そういった場合は、総理とは別々に秘書官が動かれていた。

○貞森審議官 そのころは、余り5階から離れられないんですね。危機管理センターに行ってしまうと、携帯電話が通じないので躊躇するんですよ。結局行かなくなってしまうというか、だから、私は余り地下に行っていないですね。何度行ったかというのも記憶にないんです。最初に行ったのと、あとは2～3回ですかね。何か具体的に用があってだれかに会いに行くとか、そういうことで降りていった記憶はありますけれども。

○質問者 何か継続的な協議のために降りるとか。

○貞森審議官 継続的にいたということは余りないです。

○質問者 総理はいたかもしれないけれどもということですか。

○貞森審議官 総理は、そうだったでしょうね。私もずっと総理と一緒にいたわけではないので。

○質問者 その後、13日ぐらいからプラントメーカーの方、日立、東芝の技師長とか社長

【取扱い厳重注意】

の方であったり、あとは放医研の放射線センターのセンター長の方がいらっしやったり、いろいろな方が官邸に来られているんですけども、どういう人をどういうタイミングで呼ぶという話を総理から指示を受けたとか、そういう御記憶はございますか。

○貞森審議官 東芝と日立はあります。たしか最初に東芝を呼んだんだと思うんですけども、当然プラントメーカーにも協力してもらわなければいけないということで、勿論もともとやっていると思いますが、総理としても東芝に直接協力をしてほしいと、現場の収束のために協力してほしいという要望をされました。そのために東芝を呼んで、その後、日立も来ていただいたということだと記憶しています。

○質問者 それは何かきっかけがあって、いつごろのタイミングでとかいうのはどうですか。

○貞森審議官 いつごろのタイミングかというのは、もうオープンになっていると思いますけれども、たしか東芝を呼んだのは13日の午前中だったと思います。日立はその翌日ですかね。多分動静とかを見ればわかると思います。

○質問者 何か具体的に、こういう情報が欲しいから呼んでほしいとか、何かイベントがあったのでその対応として呼んでほしいとか。

○貞森審議官 まさに現場の収束のために、実際につくった人というか、メーカーのいろいろな知見というのが必要なので、もう東電はあっぶあっぶ状態で手が足りないことは明らかですし、むしろプラントメーカーの方がわかっている部分も当然あるということで、総理の方から協力をしてほしいという話が両方のメーカーに対してあったということですね。

○質問者 では、これは総理の御意向で。

○貞森審議官 そうですね。総理から東芝を呼べと言われて。

○質問者 また日程が前後して恐縮なんですけれども、3月12日の朝に、総理は現地の方の視察に行かれているかと思うんですが、これはどういった経緯で行くことになったかというのは御記憶がございますか。

○貞森審議官 私はよくわからないんです。3月11日の夜、9時とか10時とか、そういうタイミングでは、まさに電源車を送らなければいけないということで、総理も物すごく気にかけていて、先ほど言ったような連絡をされていましたし、たしかあのころは官邸の総理の執務室のホワイトボードに、電源車が何台向かっていてというようなものを書いていた記憶もありますのでそれをやっていて、その後、たしか総理は深夜に、一度下に降りられているんですね。だれからかはわからないんですけども、私はずっと5階にいて、たしか日付が変わった後も、電源車はどうなっているんだとか、つながりましたとかという連絡がなかなか来ないんですね。結局それは、ケーブルが足りなかったりということで、全然うまくいってなかったというのが後からわかるんです。

そうこうしているうちに、時間は覚えていないんですけども、2時とか3時とか、そんな感じだったんですね。済みません、時間は正確に覚えていません。連絡があって、

【取扱い厳重注意】

たしか下から電話があったんだと思いますけれども、総理が現地に行く可能性がある、現地に行くことを検討しているという連絡があったので、たしか私は保安院経由で東京電力に対して、今、そういうことを検討しているというのを伝えた記憶はあります。

○質問者 下からというのは、緊参チーム。

○貞森審議官 だったと思うんです。たしかあのとき、2時とか3時とか、そういった段階は、総理は執務室にはいなかったと思うので。

○質問者 総理は長い間、下に降りられていたような感じですか。

○貞森審議官 あのときはたしかそうだったと思います。ただ、そこは明確に覚えてないんだな。そこら辺の記憶は余りはっきりしてないんですが、とにかく検討しているという連絡がだれかから入って、別の秘書官だったかもしれませんけれども、それで保安院経由だったと思いますが、東京電力に対して連絡をした記憶はあります。

○質問者 そうすると、秘書官がその話を伺ったときには、もう既に行くことが前提としてしまっていて。

○貞森審議官 決定ではなかったと思います。

○質問者 その後、具体的にオペレーショナルに決定がなされたのはいつごろですか。

○貞森審議官 私はそこに立ち会っていないので、それはわかりません。

最終的に行くということになって、私は広報担当でもあるので、プレスの同行をどうするかというので、スーパーピューマだったので、結局いろいろな所要のどうしても乗せなければいけない人を乗せていくと、プレス用の席は1個しかないというので、たしか官邸の報道室だか広報室に連絡をして、通常こういう場合は時事と共同は総理と一緒に動けるんですけども、時事と共同のどちらか1社、一人しか乗せられないので、時事と共同で決めてくださいという連絡をした記憶があります。そういったことをやっていた記憶はありますけれども、ちょっと具体的に行くという決断がいつどのようになされたかというところは、私は立ち会っていないので。

○質問者 実際に御同行もされてはいない。

○貞森審議官 同行していません。

○質問者 政府側では、班目委員長をはじめ行かれた。

○貞森審議官 班目委員長は同行していましたね。

○質問者 そういった協議というのは、もう下で決まっていたような感じですか。

○貞森審議官 どこで決まったのかは知らないですけども、少なくとも私は所要の者というか、とにかくスーパーピューマの座席が1個しか空いてないので、医務官とか、そういった人もいるわけですね。それで、残りが1個しかないという状態での連絡でしたね。

○質問者 今、言われていることでもあるんですけども、こういった緊急事態で最高指揮官が指揮所を離れると言うんでしょうか、そういうことの是非について当時官邸で議論があったとか、そういう御記憶はございますか。

○貞森審議官 それはあったのかもしれませんが、私はその議論の場には立ち

【取扱い厳重注意】

会っていません。

○質問者 秘書官御自身はどのように思われましたか。

○貞森審議官 正直に言って驚きましたけれども、そこはもう総理に伝えるのが私の仕事ですので、そういった必要な連絡をしてやるということ。

○質問者 次が、ちょっと日付が飛んでしまっただけなんですけれども、3月14日～15日にかけて、統合本部というのが15日の朝に設置をされておるんですが、その設置経緯について御記憶はございますでしょうか。

○貞森審議官 余りはっきり覚えていないんですけれども、14日の夜からだったと思います。14日の夜から15日の未明にかけて2号機の状況が悪化していて、私は直接そのときには関与していませんけれども、経済産業大臣や官房長官に対して、東電の方から撤退の意向を伝える連絡があった。

それを受けて官邸の方も、これも私自身はその打ち合わせには入っていないので、そういった意味では自分自身のファーストハンドの記憶ではないんですけれども、私が理解しているところは、総理、経済産業大臣、官房長官と松本大臣、三副長官と補佐官、安全委員会と保安院も入ってその協議をして、東電は撤退すべきではないという結論になって、それを踏まえて東電の清水社長が官邸に呼ばれた。

清水社長に対して総理の方から撤退はあり得ませんよという話を伝えたことと、そのときにどうしても連絡がうまくいっていないということで、政府と東電の間の連絡をよくするために統合本部を設置することとしたいと総理の方から東電の清水社長に対して話をし、それを東電の清水社長が了解、合意されたということで、統合本部をつくるということになった。それで、その第1回会合というか、それとして、5時半ごろだったと思うんですけれども、まさに総理が東電に乗り込まれたということだと記憶しています。

○質問者 そういった協議であったり東電とのやりとりがなされている間、秘書官はどちらに。

○貞森審議官 私はそのときは、ほとんど直接は関わってなくて、正確な時間は覚えていないんですけれども、ほとんど深夜ぐらいのタイミング、12時とか1時ぐらいに、その日、私は1回家に帰っているんです。ずっといたもんですから。

それで、秘書官もある種交代というか時々抜けながらやっているの、たしか山崎秘書官だったと思いますけれども、もう余りにもずっといるので「一瞬家に帰ったらどうか」と言われて、たしかそのまま帰ったんです。それで、2時ぐらいに家に帰って。

○質問者 14日の午前2時ですか。

○貞森審議官 午前2時前後だったと思うんです。

○質問者 15日の。

○貞森審議官 15日です。15日の2時ごろに一旦家に帰って、それで30分ぐらい寝たんですかね。そうしたら携帯で起こされて、やはり来なければだめだと言われて、たしか4時過ぎぐらいに官邸に着いたのではないかと思います。だから、私が着いたときにはも

【取扱い厳重注意】

う東電に行くというのは決まっているという状態でした。

したがって、今、申し上げたのは基本的に、その後でいろいろな国会答弁とか何とかという過程も含めて、官邸の中で何が起こっていたのかというのを議論していく中であれなもんですから、私自身がその会議をやっているところを目撃したわけではないので、そういった意味ではファーストハンド、私としての記憶ではありません。

私自身が直接記憶しているところだけを申し上げますと、確かに14日の夜から2号機の状況が物すごく悪化しているという連絡は受けていました。これは私自身が認識しています。ただ、私自身は東電自身が撤退したいと言っているとかいう連絡はつないでもないもので、それは私自身の認識ではありません。私がいないうちに、どうもそういう打ち合わせもあって東電に行くということが決まった。ちょうどその決まった辺りに私は家からたどり着いて、東京電力に行くときは一緒に行きました。そういう経緯です。だから、私自身の直接の記憶という意味ではお役に立たないかもしれません。

○質問者 当時2号機の状況が悪化していて、今回の事故の中で最も危機的状況だったと言う人もいるような状態だったと聞いているんですけども、その状態で秘書官の何人かが帰るとか、体制をちょっと緩めるような判断になっているというのは何かきっかけがあったのですか。

○貞森審議官 体制は必ずしも緩んでないと思うんです。確かに事後的に思えば、そこでもう少し世の中がちゃんと見えていれば、だからその点は私自身もちょっと悔いがあります。ただ、ずっといたもんですから、ほとんど役に立たないような状況になっていたものですから。

○質問者 疲れからですね。

○貞森審議官 そういった意味ですね。

ただ、私自身にとってはそういうことですけども、総理の周りには専門家も含めて厚い布陣になっているので、その時点で官邸の対応能力が低くなっているということは勿論ないと思います。

○質問者 もう一点、これは全く御存じないかもしれないんですけども、当時同じぐらいのタイミング、14日の夜ぐらいに、オフサイトセンターも福島県庁に移転をすとかという話が若干上がっていたようなんですけども、そういった話を聞かれた御記憶はございますか。

○貞森審議官 あったかもしれませんが、それは記憶にないですね。

○質問者 官邸の中で、オフサイトセンターも撤退すとか、東電も撤退すとか、そういう話が上がっていたとかは。

○貞森審議官 オフサイトセンターの話がどれぐらい認識されていたのかというのは、わからないですね。

○質問者 それ以降もオフサイトセンターの撤退について、15日に実際に撤退をするんですけども、撤退したとか、そういう話を聞いたことは御存じですか。

【取扱い厳重注意】

○貞森審議官 いつ、どう聞いたかというのは覚えてないですね。

○質問者 次は、今回の初動の中で、全体的なざっくりした質問になってしまうんですけども、情報の共有という意味で、秘書官として情報収集をされるに当たって、例えば保安院が地下にいたり、保安院本院から直接連絡をしたり、いろいろな情報収集ルートがあったかと思うんですが、秘書官の方に保安院から何か有益な情報が上がってきたとか、そういう印象的なものはございますか。

多分秘書官も、事故対応に当たって総理に上げる情報を収集されていたりもしたと思うんですけども、保安院から十分な情報提供があったかというところを1つ問題意識として持っております。

○貞森審議官 何をもって有益な情報と言われるのかはわかりませんが、保安院は、何がしか、だれかは常にほとんどずっと官邸の5階にいる状態でした。統合本部ができてからは、そちらの方に一元化されていったと思いますけれども、そういった意味で、保安院からは常に、彼らが把握している情報については、どの程度のものが来ていたかというのはともかくとして、官邸に伝達をされる仕組みにはなっていたと思います。

○質問者 私からは最後の質問になるんですけども、ちょっと話題が変わりまして、SPEEDIの情報が、一部の計算結果が早い段階で官邸に入っていたというふうにも聞いておりまして、そういった情報を秘書官御自身がごらんになった記憶はありますか。

○貞森審議官 ありません。

○質問者 いつ初めて見たというのはございますか。

○貞森審議官 SPEEDIについて最初に認識したのは、調べればいつかはわかると思うんですけども、少なくとも3月20日は過ぎていたのではないかと思います。原子力安全委員会が、SPEEDIの結果について公表している日があると思います。

○質問者 3月23日です。

○貞森審議官 SPEEDIについての話を最初に聞いたのは、多分その日だと思います。

○質問者 では、秘書官の方から総理にそういうデータを3月15日以前ぐらいで上げられたとか、そういうことも一切ない。

○貞森審議官 そもそも存在自体を知らなかったです。

○質問者 わかりました。

○質問者 先ほど避難の関係をお聞きしていたんですけども、幾つか補足で、先ほど聞き切れなかったところをお聞きしたいんですけども、もしわかっただらということですけども、2Fから10キロの避難指示が3月12日の5時40分ごろに出ているんです。当時1Fで水素爆発があって、1Fに対する対応をどうするかということで検討していたというところはわかるんですが、このタイミングで2Fの方の10キロの避難指示が出ているという部分がちょっとわからないんです。もしこの場におられたら。

○貞森審議官 これは記憶にないです。

○質問者 時間的には、先ほど海水注入の話が出た⑤の18時25分の1時間ぐらい前です

【取扱い厳重注意】

ね。

○貞森審議官 そうですね。

○質問者 このころ、第二原発の炉がおかしくなっている、やはり避難指示を出さないといけないとか、そんな議論をされているのを耳にされた記憶はございませんか。

○貞森審議官 記憶はないですね。

○質問者 先ほど、統合本部設置経緯ということで話をお聞かせいただいたんですけども、3月15日の11時に20～30キロの屋内退避の指示というのが出ておりまして、この避難指示について御記憶はございますでしょうか。

○貞森審議官 3月15日は、行った日ですね。

○質問者 そうです。

○貞森審議官 もう中身は覚えていないんですけども、たしか行った日に東京電力の方から、彼らの試算で放射性物質がどれぐらい拡散するというシミュレーションの絵が、あの日、総理に対して示されたのではないかと思うんです。総理というか、これに対してですね。

それで、その絵自体は、その時点で既に適用されていた20キロで収まるような話だったんですけども、当然のことながら次々と複数機がいくようなことになれば、もう少し広げなければいけないのではないかという議論が、というか、「複数機について非常に悪い状態になった場合、20キロで大丈夫なのか」というふうに総理が問われたのに対して、たしか東京電力側は必ずしもはっきり自信を持った回答ができなかった状態があったんですね。それで、そこら辺のやりとりも含めて戻ってどうするかという点が議論されました。

ただ、避難自体を30キロに広げるということになれば物すごく大変なことになりますし、現実的にできるかどうか、あるいはそこまでの必要があるのかどうかという点もいろいろ議論をされた上で、最終的に11時に出した結論というのは、20～30の間は屋内退避にしようという内容になったと記憶しています。

○質問者 総理の20で収まるのかという疑問から議論が始まっていったと。

○貞森審議官 そうですね。

○質問者 このときに、30まで広げるべきではなくて、屋内退避でいいのではないかということをも主張されていた人は覚えていらっしゃいますか。

○貞森審議官 済みません、そのときに個別具体的にだれがどういう主張をしていたかとか、そういうことまでは覚えてないですね。

○質問者 このときに貞森さんの方から、例えば保安院とかに対してどう思うかという意思を聞いてみたりということはやられていたんでしょうか。

○貞森審議官 保安院に対しては私はその点を聞いた記憶があって、それが具体的にどんなものだったかというのは覚えてないんですけども、東京電力が示した放射性物質がどれぐらい拡散しますというシミュレーション自体の前提について、一体どういうものなんだというのを聞いた記憶があります。保安院のだれだったかは覚えてないんですけども、

【取扱い厳重注意】

多分保安院だったと思うんです。

それに対する回答は、その試算は、運転中の炉が非常に危険な状態になって爆発するか、そういうことが前提のモデルだという話を聞いたので、そのシミュレーション自体はそういう前提のもののようにですという話は、総理あるいは官邸の政府の方々に報告した記憶はあります。

○質問者 最初に片山企画調整課長にヒアリングをさせていただいたときに、たしか貞森秘書官だったというふうに記憶で言っているんですけども、30キロの話が出ているので、外に出る避難と屋内退避のどちらがいいかをちょっと検討してもらえないかという話が、大体8時半か9時ぐらいに電話であったというふうなことをお伺いしているんですけども、その御記憶はございますでしょうか。

○貞森審議官 30キロという話が出ているというのを連絡している可能性はあると思いますが、屋内退避がいいか、避難がいいかどうかという聞き方をした記憶はないですね。

○質問者 ないですか。

○貞森審議官 はい。

○質問者 保安院としてはどう思うかということは聞いたかもしれないですか。

○貞森審議官 かもしれませんが、私はむしろ、とにかく東京電力が示していたシミュレーションが一体何なのかということがよくわからなかったものですから、あれは一体どういうものなのかというのをだれかに聞いたんですね。それは保安院だったかな。そこは覚えているんです。だから、そういった意味で、かなり前提が違うなというふうに思ったわけです。

○質問者 もう一つ覚えていればなんですけども、30のときに危機管理監の方から、20キロを更に30に拡大しての避難になると、要介護者とかも相当な数がいて、いきなり避難はできないから様子を見てはどうかという発言があったという話もあるんですが、御記憶はありますか。

○貞森審議官 それはあったかもしれませんが。まさに危機管理監のところは、現実に実行できるかどうかということを心配する立場のところでもありますので、そういった議論があった可能性はあると思います。ただ、明確にどういう議論だったかというのは覚えていません。

○質問者 ありがとうございます。

○質問者 3月15日の11時の20キロ～30キロの屋内退避の指示の前段階の話を今お聞きしていたわけなんですけれども、この検討作業というのは先ほどおっしゃったように、東電に統合対策本部を設置した後の11時までの間で話があるんですが、その場には貞森さんも一緒に入られていて話を聞かれた。

○貞森審議官 その場というのはどの場ですか。

○質問者 総理あるいは官房長官が避難を検討している場面に。

○貞森審議官 20～30をどうするかということですか。

【取扱い厳重注意】

○質問者 はい。

○貞森審議官 自分自身が直接入っていた記憶は余りないです。部分的には入っていたかもしれませんが。

○質問者 あのときは、伊藤危機管理監が現実には避難できるかという話をされているのを直接聞かれているわけではないんですか。

○貞森審議官 それを総理室で言っていたのか、あるいは総理室に入る前に彼がそう言っていたのを聞いていたのか、それは記憶にないですね。

○質問者 そうすると、こういう議論をされている場面というのは、そんなに記憶がない。

○貞森審議官 議論はされているんです。たしか戻ってから 11 時までは、それが 1 つの重要な論点だったので、だからこそ私も、そもそも東電がやっていたシミュレーションはどういう前提なのかというのを調べたりしていたんです。

○質問者 場所はどこですか。

○貞森審議官 基本的に、場所は 5 階の総理の執務室が中心だったと思います。ただ、その前提として、官房長官は官房長官でいろいろ考えてらっしゃったと思うので。

済みません、余りかっちり、どこで何がどう決まったというところまでは覚えていません。そういう記憶はないですね。

○質問者 ありがとうございます。

○質問者 休憩を入れた方がよろしいでしょうか。

○貞森審議官 どっちでもいいですよ。皆さんに合わせます。

○質問者 では、10 分程度、休憩をとらせていただいてもよろしいですか。

○貞森審議官 はい。

○質問者 では、3 時 10 分からでいいですか。

○貞森審議官 はい。

(休憩)

○質問者 では、よろしく申し上げます。

先ほど途中で出てきました、3 月 12 日の 6 時 25 分に出た、10 キロから 20 キロに拡大するという避難指示の経緯について若干補助的に教えていただければと思うんですが、当時、海水注入を含めた議論の中にいたある方の話ですと、再臨界があり得るので、それだったら 20 キロに拡大しなければということで 20 キロに拡大したんですという言い方をされていた方もいらっしゃいまして、それで先ほどの私の質問になっているわけなんですけれども、審議官の認識としては、再臨界があるから 20 キロということではない。

○貞森審議官 私は、避難区域を拡張する方の議論に直接参加していないので、そこはわかりません。したがって、検討された方が再臨界のおそれがあるからということで聞かれていたのかどうかは、ちょっと私にはわからないんです。

しかも、私自身は基本的に再臨界の可能性があるとは思えないと思っていたので、そういった意味では、私自身、この避難との関係についてどうなのかというのは、中立的・客

【取扱い厳重注意】

観的にわかる立場にないですね。

○質問者 恐らく私も同じ立場にいて、今ぐらいの知識があればの話ですけれども、再臨界はあり得ないだろうから、それを理由にしての避難区域の拡大というのはあり得ないだろうなと思うと思うんですが、当時その場にいらっしゃった方の中で、再臨界があり得ると思っっしゃった方もいたのではないですか。

○貞森審議官 いらっしゃったかもしれませんね。

○質問者 そういうふうに現に認識して、それを理由で 20 キロに拡大したというふうに認識してらっしゃる方もいらっしゃるんですが、それはわからないですね。

○貞森審議官 わかりません。

私の理解は、再臨界そのものということではなくて、まさに水がなくなって海水注入までしなければいけないという状況にはなっているわけですね。だから、再臨界するかしないかはともかくとして、1号機の状況が非常に深刻であるということは疑いがないので、そういった意味で、それまでの 10 キロで本当に大丈夫なのかということだったのではないかと思いますけれども、済みません、それはむしろ避難地域の方を直接決められた方に聞いていただかないとわからないと思います。

○質問者 先ほど話が出てきました、経産省の■■■■課長さんからも話を伺っておりまして、先ほど審議官がおっしゃったように「当時議論が混乱していて、論点整理しなくてはという話をして、論点整理したんです」という話をされていまして、先日、実は細野大臣からも話を伺いまして、同じように「論点整理をやったんです」という話でした。そのときには一緒にいらっしゃった。

○貞森審議官 一緒にいましたね。ずっとではなかったと思いますけれども、少なくとも柳瀬君なんかと議論して、とにかく次に総理に説明をするときは変な説明をするわけにいけないので、ちゃんと整理しなければいけないと。

たしか彼が提案したんだと思いますけれども、論点を3つぐらい、再臨界の可能性があるのかということと、再臨界を含めて海水に置きかえても支障はないのかあるのかという技術的な点と、したがって最終的にやらなければいけない、そこら辺の論点を幾つかまとめて、安全委員会も保安院も東京電力もみんな一致していますというところを明確に説明しようという話だったと記憶しています。

○質問者 実は、議論が混乱していたというか、論点が混乱していたという話は、■■■■課長からも細野大臣からも聞いていますけれども、どんなふうに混乱していたのかというのが、いま一つイメージがわからないんです。もし、そこら辺の御記憶がございましたら具体的に、こんなことを言っているのにこんなことを言っていて、全然かみ合っていないみたいな。

○貞森審議官 だから、あのときは一瞬混乱しているように見えるのだけれども、今から思うと、とにかく安全委員長が再臨界の可能性がゼロではないという説明をしたというところに、ある種単純に帰着するのかもしれません。つまり結果的に、その後の 19 時 40 分

【取扱い厳重注意】

ぐらいから開催された会議でも、基本的に3者全員が口をそろえて言っていたことは、再臨界の可能性はほとんどないと。

たしか2回目の説明をしたときは、班目委員長ではなくて久木田委員長代理だったと思いますけれども、再臨界の可能性という点に関して言えば、可能性はほとんどないと。他方で事態は非常に切迫していて、真水がない以上は海水を入れて冷やさなければいけないという緊急性は高い。したがって、海水注入をやらなければいけません。それは、ある意味では保安院も全く同じです、東京電力も全く同じですという形で、結果そろえてやったということなので、混乱していたというよりも、あのときはとにかく実際に混乱していましたからね、雰囲気的には物すごく混乱していたので、どうなってしまうんだろうかというふうにみんな思っています。

○質問者 悪い雰囲気でしたか。

○貞森審議官 はい。

みんな物すごく心配していたんですけれども、突き詰めて考えれば再臨界の可能性はない、実質的にないということをやっと説明しなければいけないのが、そのときにできてなかったということに尽きるんだと思います。

○質問者 その混乱している論点の中に、避難の話というのは入ってないですか。

○貞森審議官 なかったと思います。専ら、海水注水をやるかやらないかという技術的な話だけです。

○質問者 そうすると、避難の話というのは端っこの論点として、ぱたぱたと。

○貞森審議官 避難の方は、そのときに入っていた枝野官房長官とか、福山副長官とか、もともとそっちの避難の話を中心になって検討していた人たちが検討していたので。私はどちらかというと、とにかく海水注水の話をもう一度総理にちゃんとさせなくてはという思いで、そっちの方ばかりにずっとついてやっていたので、そっちの避難の方の話は、実質的にはわかりません。

○質問者 ただ、同じ部屋で。

○貞森審議官 出たんですよ。終わって、やり直しということになって、だっと出たんです。官邸応接室ではなくて、官邸の5階には待合室が幾つかありますので、その小さな小部屋に入って3者が集まって、柳瀬君が論点整理しなければとか言ってやっていたのが、官邸でちょっと待っている部屋ですね。あと、秘書官なんかが会議に使う部屋なんですけれども、そこでやっていたので。そっちに移動して出て行って、ああだこうだと言いながらやっていた記憶があります。

実際に論点整理とかをやっていたのはこっちの部屋で、枝野長官とか避難の議論がどこでなされていたのかは、私はとにかくこっちにくっついて出てきたので、そこは正確にフォローしてないです。

○質問者 実は、この避難指示というのが18時25分に出ているんです。そうすると、ブレイクして論点整理に入る間際といたしますか、前に入るような時間帯です。

【取扱い厳重注意】

○貞森審議官 たしか終わった直後ぐらいの感じですね。前後関係はあれですけども、少なくとも再臨界の可能性があるというふうに言って、総理が「それなら大変ではないか。ちゃんと検討し直さなければだめではないか」と言って。細野さんただかな、1回1時間ぐらいブレイクして、また1時間ぐらいでという話になって出たんですね。

私の記憶の中では、その出際に何か言っていたような感じなんですね。避難地域も今のままでいいのかという議論は、割と実際にそんな議論をしているなという認識ですね。

○質問者 そうすると、再開したのは19時30分～40分ごろでしょうから、それより1時間前にはもう出ていますので、ばたばたと決まった感じ。

○貞森審議官 きっとそんな感じだったんでしょうね。

○質問者 ありがとうございます。では、続けて。

○質問者 私から、質問事項の中の「3月12日ごろの保安院のプレスについて」と、プレス関係で御質問を差し上げたいんですけども、その前に、総理が現地視察をされたときのお話の中で、貞森秘書官は広報担当をされていたといったお話をされていらっやいまして、ざっくばらんな質問になってしまうんですけども、広報担当とは具体的にどのようなことをされていたのか。

○貞森審議官 総理秘書官が何人かいる中で、クラブとの関係の窓口をやる係というのがいます。一番端的にわかりやすい話をすれば、3月11日の震災以前は、総理は必ず毎日ぶら下がりをやっています、このぶら下がりを担当していたのは私です。わかりやすく言えば、何時にどこでやるとか、プレスの場合は幹事社というのがいますので、その幹事社にどういうことを質問するのかということを知ったりとか、そういった形でアレンジする係。

それから、例えば総理が出張とかに行きますね。地方の視察とかに行くと、そこでもぶら下がりをやります。そのぶら下がりを実体的にどういうふうにするかというのを決めて、プレス側と仕切るとかですね。あるいは、総理の会見となると広報官などもやるわけですけども、総理との関係の接点はとりあえず私のあれなので。あと、総理向けのいろいろな想定問答ですね。問いなんかをとったものの回答を、自分で書く問いというのはそのときにあたりなかつたりですけども、基本的にとりまとめてやるとか、そういう係です。

○質問者 わかりました。

質問項目の方に戻らせていただきたいんですけども、3月12日ごろの保安院プレスについて、非常にざっくりとした形で申し訳なかったんですが、3月12日の14時ごろ、午後2時ごろに保安院の記者会見において、保安院の中村審議官の方から、炉心溶融をしている可能性が高いのではないかといった趣旨の御説明がありまして、その関係で、例えば15時ごろにNHKの方で、炉心溶融の可能性があるとといった報道がなされたなど、それがいろいろメディアに出ていたようなんですけども、具体的にそういった話を貞森秘書官は、当時御存じでいらっやいましたでしょうか。

○貞森審議官 事前にとということですか。

【取扱い厳重注意】

○質問者 やられた後にですね。

○貞森審議官 やられて報道されたんですね。事前に保安院の方から何の連絡もなかったもので、官邸の総理や官房長官もそうですし、我々も報道で初めて知ることになったものですから、この種の重要な事項については、事前に総理や官房長官にちゃんと連絡してから発表するのが普通なのではないかと。こういった重要事項について、総理や官房長官が報道で知るといのはおかしいではないかということで、ちゃんと事前に連絡するよという連絡を保安院に対してしました。

○質問者 こういった報道がなされているということ、いつごろ見られたかというところなんですけれども、何時ごろかは大体覚えていらっしゃるでしょうか。

○貞森審議官 それは覚えてないですね。ただ、保安院がこんなことを言っているというのは報道されていて、この話を聞いているかと秘書官の間でも話題になって、えっという感じだったですね。済みません、何時だったかというのは覚えてないです。

○質問者 では、実際に報道をごらんになられて。

○貞森審議官 報道で知って、びっくりしてということだったと思います。

○質問者 その記者会見以前に、記者会見で何を言うみたいな情報というのは審議官の方には全く情報が来てなかったということでしょうか。

○貞森審議官 なかったと思いますね。

○質問者 12日の14時ごろのプレスの後に、総理や官房長官、官邸側がそういう話を最初に報道で知るのはおかしいといった話を保安院に伝えたということなんですけれども、具体的に保安院のどなたに伝えたかは覚えていらっしゃるでしょうか。

○貞森審議官 覚えていません。可能性があるのは、片山課長かもしれませんし、わからないですね。覚えてないです。

○質問者 先ほど、このころに一番連絡をとられていたのは片山課長だとおっしゃいました。

○貞森審議官 話した回数は片山課長が一番多いので。彼のところに言えば、一応彼は全体の総括役なので。

○質問者 その話をした相手は、片山課長だけですか。事前に出してくれないと困るではないかという話をほかの方にはされていないですか。経産省のどなたかには話をされていないですか。

○貞森審議官 可能性があるとする、経済産業省の広報室長ですか。そっちに言ったかな。済みません、だれに言ったかは覚えてないです。

○質問者 わかりました。

○質問者 複数に言われた御記憶等も含めて覚えていらっしゃるでしょうか。

○貞森審議官 だれに言ったかは覚えてないですね。

○質問者 先ほど秘書官の間で話題になっていたとおっしゃられていたんですけれども、政務側というか、総理や官房長官や副長官から何か保安院プレスについてお話を伺いさ

【取扱い厳重注意】

れたとか、そういうことはありましたか。

○貞森審議官 あったかもしれませんが、具体的にどういうやりとりがあったかというの覚えてないですね。

○質問者 貞森審議官が保安院側に、事前にきちんと入れないのはおかしいではないかという話をされたのは審議官の御判断で。

○貞森審議官 そうですね。

○質問者 ヒアリングでほかの方からお伺いしている話なんですけれども、15時や16時ごろに、具体的に何の話で集まっていたかはわからないんですが、総理応接室で何かの集まりがあって、その中での保安院プレスの話が話題になって、炉心溶融ということを最初に言っているようだ、何でこんなことを言っているんだ、重要な事項は官邸が最初に発表するんだといったことを言っている声が聞こえたといったことを聞いたことがあるんですけども、そういった場面に出くわしたことは御記憶にありますか。

○貞森審議官 官邸がまず発表するんだということの記憶はないですね。ただ、ちょっと具体的にどう言われたかというのは覚えてないですけども、御指摘のように官邸の政務周りの方々も、事前にちゃんと連絡がないことについては、一体これは何だというような反応をされていたのではないかなという記憶はあります。

○質問者 そういった反応をされていたのがどなたかというのはわかりますか。

○貞森審議官 ある種、みんなそうだったのではないですか。とにかく総理にしても官房長官にしても、全く事務的にちゃんとした説明がなくて、そういった重大な事象について報道がなされているというのは、ある種異常なことですよ。

○質問者 官房長官も含めて、皆さんそういうような。

○貞森審議官 具体的に、だれがどう言っているという話は記憶がないんです。やや記憶が抽象的なんですけれども、明確に覚えているのは、私自身がこれは非常にまずい、これはよくないと思って、その連絡をしたのは自分でやったことなので明確に覚えています。そういった意味で、総理や官房長官は、少なくともこういった状況がよくないという認識はお持ちだったはずだと思います。ただ、具体的にどう言っていたかとか、そういったことは覚えてないです。済みません。

○質問者 ちょっとくどいようなんですけども、こういう状況はまずいと思われたというところの端緒というか、総理や官房長官がそういった保安院の情報共有体制について問題意識を抱えているんだという御認識があったからまずいと思って、報道の話を聞いたらすぐに電話をかけたということなんですか。

○貞森審議官 というよりも、とにかく官邸側に対して事前に何も説明しないでおいで、いきなり世の中に出すというのは、幾ら緊急事態だといっても普通ではないですね。むしろ緊急事態で、例えば避難とかにも関わる話ですから、決して保安院だけで閉じている話でもない。だから、そういった重大なこと、細かいテクニカルな話について全部事前に教えてもらっても、別にそういうことをしろということではないですけども、おのずから、

【取扱い厳重注意】

ちゃんと総理や官房長官に説明した上で世の中に公表すべきことというのは当然あるわけなので、仕事のやり方としておかしいのではないかということですね。

○質問者 その仕事のやり方としておかしいというか、事前に情報共有をしなさいという話なんですけれども、事前にきちんと情報を入れろという御趣旨で言われたというところは、それでよろしいですね。

○貞森審議官 ええ。

○質問者 わかりました。

○質問者 先ほど最初のところで言われましたけれども、この種の重要な事項だからということでしょうか。

○貞森審議官 森羅万象は無理ですね。保安院の方が細かい話までを含めてデータをいっぱい持っているわけなので。彼らは彼らで、それを解説する必要性はあると思います。ただ、メルトダウンしているとかいう話をいきなりプレスにしゃべるというのはひどいのではないかと。

○質問者 メルトダウンという言葉は、言わばこの種の重要な事項に当たるので、事前に官邸に上げるべきだということだと思わうんですけれども、貞森審議官がそのときに思われた理由をちょっとわかりやすく説明していただけると。

我々もわかっていて聞いているんですけれども、どうしてそういうふうに思われたか。メルトダウン、炉心溶融という言葉を出すことについては非常に大事なことだというふうに思われたかという認識を、説明いただけるとありがたいです。

○貞森審議官 確かにもともと炉の状況はわかっていなかったわけなんですけれども、少なくとも 11 日や 12 日の段階では、まだ水が全部なくなってしまうということではないという趣旨の説明だったんですね、保安院の方から。まだ水があるという前提で、東京電力の方からも、水位計もどれぐらいを指していますとか、そんな説明がずっと 11 日～12 日にかけては続いていたと思うんです。だから、完全に空だきになって、いわゆるメルトダウンが起こっているという説明は全くなかったの。

○質問者 そうしますと、まだ炉心が水の中にあるというふうに認識されていたということですか。

○貞森審議官 確定的にはわかりませんが、あのときはまだ水位計がどうのこうのという議論があって、今となつては非常に早いタイミングで燃料が全部露出して、数時間の単位で始まったとかいう推計を保安院が出していますけれども、当時はそこまでの認識は全くなかったんですよ。確かに、どれぐらい水があるかはわからないという状態ではあったんですけれども、いずれにしても、当時メルトダウンの可能性はありますという説明が総理や官房長官に対してなされていたという状況ではなかったわけです。

勿論、あのときは実態がわからなかったわけなんですけれども、いずれにしても、ある意味でメルトダウンというのは物すごく深刻な事態なので、そういった可能性があるということならば、それはそれでちゃんと政治のトップ、総理や官房長官に状況を説明してから世

【取扱い嚴重注意】

の中に対して説明するのが本来ではないかということですね。それは当たり前のことだと思います。

○質問者 実は私も今まで頭の整理がついてなかったところがあるんですけども、炉心溶融というのは、この時間帯であれば、多分 12 時間ぐらい前から始まっていた段階での広報で、炉心溶融をしていることはわかった上で、発表するんだったら一言言えよという趣旨なのか。

○貞森審議官 炉心溶融しているという認識はなかったんです。

○質問者 炉心溶融しているかどうか。

○貞森審議官 しているかどうかはわかりません。ただ、12 日ごろの説明では、水位計がまだ水がある程度はあるという表示だという説明もたしかあったと思ったんですね。

○質問者 そうしますと、メルトダウンとか、炉心溶融あるいは炉心損傷とか、言葉の使い方の問題ではなくて、そもそも事実が本当にそうなんだったら早く言えよというレベルですか。

○貞森審議官 そうです。ただ、中村審議官の説明というのもどれぐらい確定的なものとして言ったのかどうかというのは、余りよく覚えてないんです。

○質問者 具体的には、炉心溶融をしている可能性が高いという御説明で、メルトダウンをして、炉に穴が開いてしまったというような説明をされているわけではなかったんです。

1 点、解せないところがありまして、先ほど海水注入のときに、例えば臨界をする危険性について、炉が健全であれば燃料棒の間に制御棒が挟まっているので、水が入っていたとしても臨界を起こす危険性は少ないだろうと。

もう一つ、炉が溶けていた場合には制御棒も含めてだまになっているので、水があつたとしてもだまになっているんだから再臨界を起こすような危険性は少ないのではないかと思われていたというお話をされていらっしやいまして、ほかには IC が 8 時間程度しか生きないといったお話もされていまして。

○貞森審議官 IC とは何ですか。

○質問者 非常用復水器の話です。

○貞森審議官 IC とは最近よく報道されるのであれなんですけれども、そのころは隔離冷却系とかいう説明だったんです。

○質問者 アイソレーション・コンデンサーということですね。

○貞森審議官 では、同じことだ。

○質問者 同じものです。

○貞森審議官 そちらのバッテリーが 8 時間ぐらいはもつということです。

○質問者 そういった御認識があるとすると、全交流電源喪失が 11 日の 16 時ごろで、8 時間はとっくに経っているといったところで、3 月 12 日のお昼ごろであれば、そろそろ溶融している可能性もあるのかなというところになるのかなと。

○貞森審議官 済みません、余りそんなに論理的に考えてなかったんです。ただ、水も入

【取扱い厳重注意】

れていたんですよね。そういった意味で、隔離冷却系というのも回っているわけですし、水も入れているわけなので、全然なくなっているということではないのではないかと、あのときは漠と思っていたんだと思いますね。

○質問者 海水注入のときに、もしかしたらだまになっているかもしれないと。

○貞森審議官 先ほどの私の説明も、後から得た知識が混ざっているのかもしれませんが、そんなに明確に、論理的に考えたというほどでもないんです。ただ、少なくとも制御棒が全部入った状態でとまっているわけで、そこに新しく海水が入ったからといって臨界するはずはない、素人ですけれども、そういうのでは臨界しないのではないかというふうに思っていたということですね。

余りそんなふうの場合分けして、あのときにきれいに考えていたということはないかもしれませんが。そういった意味で先ほどの説明は、ややその後で得た知見が入ってしまっているかもしれません。ミスリーディングかもしれない。

○質問者 炉心溶融という報道があった何時間か後の話でもありますね。

○質問者 海水注入の話は 18 時なんです。ただ、3 時間しかスパンがないので、ちょっとどうなのかなと思ったんです。

○貞森審議官 余りその 2 つをリンクさせては考えていないですね。とにかく水は、今まで真水が入っていて、それに海水を入れるということなので、私の頭のイメージでは、水は足りないかもしれないけれども空っぽにはなっていないはずだという程度に思っていました。

○質問者 では、14 時ごろに報道で溶けているという話を聞いたときには本当にびっくりされた。

○貞森審議官 そうですね。ましてやメルトダウンとかという言葉が使われているので。メルトダウンだったかな。

○質問者 炉心溶融です。

○貞森審議官 炉心溶融でしたか。そういう言葉が使われていたので、それもある種、非常にインパクトを持っている言葉。

○質問者 それでは、事前にちゃんと情報共有をしろという話を保安院に伝えた後は、保安院のプレスで何を言うかという話は、事前に情報が伝わってくるようになりましたか。

○貞森審議官 確かにそれを言った後は、何時からこういう会見をやりますとか、余り知る必要もないようなことまでを含めて連絡がありましたね。

○質問者 この会見では何を言う的なこともきちんと。

○貞森審議官 こういうことを発表しますとか、細かいことも含めて連絡が来るようになりましたね。

○質問者 御記憶の限りで結構なんですけれども、そういうことはほとんど紙ベースではなくて、口頭ベースで伝達されていましたか。

○貞森審議官 口頭だったような気がしますね。紙で来た記憶は余りないです。紙でする

【取扱い厳重注意】

ような余裕はなかったのではないですか。

○質問者 では、そういった話を保安院に伝えられた後に、総理や官房長官から保安院のプレス状況について何か指示等を受けられた御記憶というのはございますか。

○貞森審議官 余りないですね。

○質問者 それでは、次の質問に移らせていただきたいと思いますけれども、3月12日の夜に福島県において、1号機の建屋が水素爆発した後の写真を公表された件があると思うんですが、貞森審議官がそちらの方を御認識されたのはいつごろだったかを覚えていらっしゃいますか。

○貞森審議官 何時かは覚えてないんですけども、3月12日の夜になってからですね。何時ごろかな。そもそものきっかけは、それがネットに出たんだか、報道されたんですね。福島県庁に対して東京電力の福島事務所が、1号機が爆発してこうなりましたという写真を持って説明に行ったという報道が流れていました。

それで、枝野官房長官の方から、こういう報道が流れているんだけど事実関係を確認してくれという指示があって、私の方から東京電力に直接やったのかな。だれに聞いたかは記憶がないんですが、東京電力に一体これは何ですかと。ちょっと似たような話ですけども、こっちには全然何の報告もないのに、何で我々がこういうことを報道で知らなければいけないんでしょうかということ、東電に対して事実関係を聞いたら、それに対して東京電力からどういう回答があったかというのは覚えてないんですよ。本社も知らなかったんですとか、そんな内容だったような気がするんです。

それで、官房長官に東京電力はこう言っていますというのを回答したら、その場で官房長官が、そこら辺の一連のアクションも結構夜遅かったと思うんですね、たしか官房長官が清水社長に電話したんですね。

○質問者 官房長官から直接。

○貞森審議官 直接その場で。官房長官室から。夜の10時ぐらいだったかな。時間を覚えてないんですけども、福島県庁に連絡したことを官邸に報告しないということも含めて、この水素爆発の関係だけではないんですが、東京電力から官邸に対する連絡が余りにもひどいのではないかという趣旨の注意を電話でされていました。具体的にどういうふうに言われたかというのは覚えてないです。

○質問者 貞森秘書官は、電話されているのをごらんになってどんな感想を持たれましたか。

○貞森審議官 当然だろうと思いました。

○質問者 今のお話で何点かお伺いしたいんですけども、最初に枝野官房長官から貞森審議官が、これはどういうことですかということで直接指示を受けられたということによるしいですか。

○貞森審議官 間に官房長官秘書官が入っていたかな。

どういふあれだったかは覚えてないんですけども、風景として覚えているのは、官房

【取扱い嚴重注意】

長官はそのとき地下の管理センターにいたんですね。そこに降りていったのかな。どうい
うあれだったかは覚えてないんだけど、枝野さんが「これを知っているか」とかネッ
トのプリントアウトみたいなものを渡して、僕もそれで初めて見て、えっと驚いたのです。
そういうものがあるんだったら何でこっちに来てないんですかねとか言って、「とにかく事
実関係を確認します」と言って、たしか5階に戻って自分の執務室から、どうやって確認
したかな。覚えてないですけど、最終的には東電のだれかに聞いたら、たしか東電は
「本店も知らなかったんです」ということを言っていて、それを枝野さんに。

枝野さんは、そのときはもう上に上がっていたから5階の官房長官室に入っていて、東
電はこんなふうに回答していますというふうに伝えて、とにかく清水社長に電話しよう
というふうに、その場で枝野官房長官が清水社長に電話されていましたね。そんな経緯だ
つたと記憶しています。

○質問者 ネットのプリントアウトをごらんになられて、5階に戻られて、その5階から
東電のだれかに連絡をされたということなんですけれども、東電の方からちょっとお話を
お伺いしてまして、秘書官室に直接呼ばれて貞森秘書官に会いに行つたと。「福島県で1
号機の爆発後の写真が出ているんだ。これを事実確認してもらえますか」といったことを
お願いされたと。本店に確認して、その旨を。

○貞森審議官 では、5階にいた東電の人にやつたんですかね。そうかもしれません。東
電のだれに電話したのかというのが記憶に全然来なかったの。あのころは、5階に東京
電力のだれかが、武黒さん、または武黒さんの部下の人がいましたから、そのだれかに、
これは何でしょうと言つたんですかね。だとしたら、それは正しそうな感じがしますね。

○質問者 では、お電話されたというよりは、その場にいる方に直接ちょっとということ
で秘書官室に呼ばれて。

○貞森審議官 ただ、回答が返ってきたのが電話だったのかな。その辺りも自信がないで
すね。とにかくそういった形で東電に対して確認をして、回答をもらった記憶はあるん
です。それをそのまま、こう言っていますというふうに枝野官房長官に伝えた記憶はありま
す。

○質問者 実際に審議官から事実確認を依頼された東電の方が記憶の中にある限りで、審
議官に東電で確認した事実関係をお伝えしたところ、審議官が、そうなんですかとすごく
驚かされていたというお話をされていて、もしかしたら報告した内容に、審議官の事前の御
認識と相違があったのではないかと。東電からの報告を審議官が聞かれたことによって、
そういうことだったのかといった反応を示された記憶があるということです。

○貞森審議官 そのときに、その人はどういう説明をしたと言っていましたか。

○質問者 時間的な感覚の説明の話なんですけれども、東電の1号機が爆発した後に、6
時ごろに官房長官記者会見があるんです。その後に福島県庁で、その写真を出して説明し
たと。そのことについては、本店もこれを出すという話を確認し切れていなかったと。私
たちも今知りましたといった話を貞森秘書官に説明された。

【取扱い厳重注意】

○貞森審議官 そんな趣旨だったと思うんですけれども、僕がもしびっくりしたとすれば、そんなばかなということなんです。だって、支店から本店に連絡があるのは決まっているだろうし、写真で説明しているということになれば本店も把握してなければおかしいんで、今から思うとそういうふうに思った記憶があります。そんなことがあるかなと思った記憶があります。だから、本店も知らなかったんですとかいう話がうそっぽく聞こえた。余り推測で言うと、東電に迷惑がかかるかもしれないのであれかもしれないけれども、あのときは本当かなと思った記憶はあります。だから、びっくりしたような声を出したというのは、そういうことかもしれない。

○質問者 これは私の勝手な邪推なんですけれども、その東電の方が、時間的な感覚の認識がずれていたかもしれないという話をされていて、もしかしたら貞森秘書官が、官房長官記者会見をする前に東電の福島事務所の方が写真を出して説明していて、それはけしからんということをおもわれていたら、実は調べてみたら官房長官記者会見後だったのかなど。

○貞森審議官 なるほど。あれは1号機が爆発した映像は出ているんだけど、官房長官は、事実関係を把握し切れないうまま記者会見をやらざるを得なかったという状況ではあったんですね。あのときは、確かに官房長官は非常に難しい対応を強いられたことは間違いないので。済みません、そこまで覚えてないですね。要するに、事前に知っていたのに何でこっちに情報をよこさないんだというふうに思っていた可能性もあるんですかね。

ただ、いずれにしても僕があのとときに思ったのは、もうかなり暗くなってしばらくしてからなんです。それで夕方に福島県庁に行って、こんな立派な写真を持って説明しているというんだったら、何でこっちに今まで一言もないんだよという思いの方がまずあったと思うんです。

それに加えて、官房長官会見との前後関係まで。あり得ますけれども、ちょっとそこまでの記憶はないですね。

○質問者 余り覚えてらっしゃらないというところで、くどい質問になってしまうんですけれども、目の前で枝野官房長官が清水社長に直接お電話されていたといったところなんです。どんな話をされていたかというのは。

○貞森審議官 具体的なやりとりは覚えていません。ただ、とにかくこの写真の件とか、1号機の爆発の件も含めて、東電から官邸に対する報告の在り方というのは余りにも悪いのではないかということ指摘されていたという記憶はありますね。そういう趣旨だったと思います。具体的にどういう言葉遣いをされて、どういう言い方をされたかというのは記憶にないですけれども、趣旨はそういうことだと思います。

○質問者 そこに関連しまして、3月18日ごろの東京電力のプレス発表や情報共有状況についてなんですけれども、このころには東京電力の情報共有状態が悪いんだといった御認識があったから、枝野官房長官が清水社長に直接御連絡された経緯もあったと思うんですが、いつごろからこういうような雰囲気は漂い始めたという御認識がありますでしょうか。

【取扱い厳重注意】

○貞森審議官 いつごろからかというのは、私もよくわかりません。

ただ、もともと事故が発生して以降、なかなか状況がわからない事態は初めからずっと続いていたわけですね。勿論、東京電力自身がわかってなかったというか、本当にだれもわかってなかったという状況だったんだろうとは思いますが、そこはともかくとして、結果的には官邸から見ていて様子がよくわからないという状態がずっと続いていたわけですね。

ある種決定的だったのは、3月12日の午後の1号機の爆発で、あれは日テレだったと思うんですが、日テレのテレビ映像が最初に出て、明らかにすごいことが起こっているにもかかわらず、これも東京電力に同情しますけれども、東京電力自身も多分把握できない。恐らく、現場の方々が一番把握できないというか、瓦れきの中でなかなか近づけない状態だったと聞いていますので本当にわからないんだと思うんですが、それにしてもわからない、連絡が来ないという状況で、先ほどお話があったとおり、官房長官がどういう事象だったのかという確たる報告がないだけども、かといって何も言わないでいるのはかえって世の中に不安を与えるのではないかという御判断だと思いますが、最終的には必ずしも一体どういう事象なのかというのがわからないまま記者会見に臨まれたわけなので、そういった意味で、東京電力自身がどれくらいわかってなかったかということはあるんだろうとは思いますが、報告が遅いなということは官邸関係者の東電に対する不信感と言うんでしょうか。

東電自身もわかってなかったんだと思いますけれども、あのときは、たしか官邸に来ている武黒さんだったかどなたかも、必死に東電の本店に携帯で電話されているのを私も目撃していたので、彼らも大変だなと思いつつも、それにしてもなかなか来ないというのが、難しいとわかりつつも、もう少し情報が来ないかなという感じになったということではないかと思います。

○質問者 それでは、先ほどの枝野官房長官が清水社長に直接御連絡をされた後の話なんですけれども、その後そんなにスパンを置かないで貞森審議官が東電の職員を秘書官室に呼ばれて、事実確認をしてくれと言われた職員の方がいらっしゃると思うんですが、その職員の方がそのまま5階に残っていたところ、すぐに何かの技術的なミーティングがあって、その技術的なミーティングの後に、その方と東電の■■■■部長が、まず枝野官房長官から部屋に残りなさいということと言われて部屋に残られて、その後、枝野官房長官が菅総理の面前で東電の情報共有状態について叱責するといった場面があったと聞いているんですが、審議官はそのことについて何か御存じですか。

○貞森審議官 それは知らないです。それは目撃してないですね。

○質問者 その後に、清水社長が3月13日の14時ごろに来られたと今思われているんです。

○貞森審議官 官邸にいらっしゃいましたね。午後の早いタイミングだったと思います。

○質問者 なぜ14時に清水社長が官邸の方に来られたかという理由は御存じでしたか。

【取扱い厳重注意】

○貞森審議官 これも余りはっきり覚えてないんですけども、その手前に清水社長は官房長官のところに行かれているのではないかと思うんです。多分。ちょっとその辺はもう覚えてないんです。

その後、官房長官室から総理室の方に回ってこられて、たしか、総理が清水社長を呼んだというよりは、官房長官のところに来られた清水社長がそのまま総理執務室に来たという感じだったのではないかなと記憶していますけれども、ちょっとあいまいです。

○質問者 では、なぜそもそも清水社長が官邸に来られたかという理由は、そのときは御存じなかったということですか。

○貞森審議官 そのときは、たしか。

○質問者 内容としては、14時ごろに計画停電の話です。

○貞森審議官 計画停電の話なんですね。計画停電の話で官房長官のところに来られたのではないかと思うんです。

私が覚えているのは、たしかその足で総理執務室に行って、たまたま総理が空いていたので、ちょっと待っていただいて入ったんですね。それで、計画停電もやらなければならぬ可能性があるということ清水社長の方から説明されたんです。

清水社長は、それを言うために入ったらしいんです。私もやや、あれと思ったんですね。つまり、昨日、官房長官にあれだけ怒られていたので、総理にも謝るんだろなというふうに思っていたんです。そうしたら、中身は覚えてないんですけども、計画停電の可能性があつてという趣旨のことを話されて、以上終わりで帰りそうな雰囲気になったので、菅総理の方から「話はそれだけではないのではないかと」。つまり、そもそも東電から官邸に対する情報の共有のやり方、連絡が悪過ぎるのではないのか。どういう言い方をしたかは覚えてないんですけども、12日に1号機の水素爆発が起こった後、1時間以上をかけて連絡が全然ないという状況になって、我々は何もわからなかった、こういうことでは困るということを指摘されて、連絡はもっとしっかりとしてくれという注意を行われていました。

○質問者 そこで情報共有体制が悪いんだという話を菅総理がされるというのは、事前に御存じではなかった。

○貞森審議官 いや、私は言うだろうとは思っていました。というのは、まさに前の日の枝野長官の注意もあれですし、実際に全然連絡が来ないと言って、前の日は官邸のみんながびりびりしていたので。だから私は、むしろ清水社長はいの一番にそれを謝るだろうと思っていたら、計画停電の説明から入って、後で謝るなど思っていたらそれで終わりそうな雰囲気になったので私もびっくりして、私の立場からは、総理は当然そう言うだろうなというふうに見えていましたね。

○質問者 これもほかの方からヒアリングした話なんですけれども、総理の前に会われた官房長官からお話されたことは情報共有体制のことについてと。言葉は悪いですけども、清水社長はずっと平謝りというか、謝罪をされていたといった状況で、私も、普通の感覚

【取扱い嚴重注意】

であれば総理室に入ったときにすぐに謝ると思うんですけども、御記憶の中でも、あれと思うぐらい。

○貞森審議官 なかったですよ。総理から言われて、当然そこから先は平謝りですけども、自発的に自分から言ったのではなかったと思いますね。なぜそうなったのかというのは、よくわかりません。よくわからないなと思って見ていました。

○質問者 では、私からの質問は以上です。ありがとうございました。

○質問者 東電が4月4日に低濃度汚染水の海洋放出をしていますけれども、それに関してちょっとだけ聞きたいことがあります。

4月4日に実施しているんですが、一応その前から統合本部の中である程度議論が進められていたんですけども、4月4日より少し前の段階で菅総理から、汚染水の海洋放出に関して意向なり何なりを表明されたことはありますか。

○貞森審議官 記憶にないですね。

○質問者 全くないですか。

○貞森審議官 記憶にないというのは、ないかどうかではなくて、特に4月4日ぐらいになると、統合本部が細野補佐官の下でオペレーショナルになっていたもんですから、汚染水の話はほとんどそっちで決めていました。だから、もし総理に対して相談がなざれているとすれば、細野補佐官から直接されているんだと思います。私のところは通っていません。そういった意味で、わからないということですね。

○質問者 では、4月4日当日のことなんですけれども、菅総理に対しても了解をとっているというふうに聞いているんですが、だれがいつとったかというところがはっきりしなくてですね。

○貞森審議官 全く覚えてないですけども、細野補佐官ではないですか。あのころの流れでいくと、その種類の重要事項については細野補佐官が直接総理の了解をとっているというパターンが多かったの。ただ、この汚染水の話が具体的に、細野補佐官がいつ何時に入ってというところまでは記憶がないんです。

その可能性が高いのではないかと思います。それは細野大臣に直接御確認いただくか、当時、細野補佐官の周辺にいた人間に御確認いただくしかないと思います。

○質問者 直接話して了解をとるパターンが多かったのでしょうか。

○貞森審議官 ではないかもしれませんが。ただ、細野補佐官が一人で入られてということも多いので。

○質問者 私は以上です。

○質問者 よろしくお願ひします。

緊急作業者の線量限度の引き上げについても何点かお尋ねしたいのです。3月14日に、それまで100であった線量限度が250に引き上げられているんですけども、これは午後には官邸の中で議論が行われて、夕方ごろに官邸から経産省、厚労省、文部科学省、官邸の事務方の方に指示が行っていると思うんですが、こちらの議論について、貞森秘書官が御

【取扱い嚴重注意】

存じのことなどはございますでしょうか。

○貞森審議官 これはほとんど記憶がないんですね。多分、担当閣僚は厚生労働大臣だと思うんで厚生労働大臣とか、あと、保安院もいたはずなんですよ。それから、この種の議論であれば、総理は必ず安全委員会を呼んでいるはずなので、保安院や原子力安全委員会などの専門家が入って、総理に説明して、それで了解をとったということだと思います。あと、細野さんも当然いたはずだと思います。250 に上げないと、だれも作業ができなくなってしまふということが必要だということですね。

具体的に、どういうやりとりでというのは記憶にないんです。確かにそういうことがあったなというのは覚えています。

○質問者 あったなというのは何ですか。

○貞森審議官 250 に上げたということ。

○質問者 厚労大臣とか細野大臣とか、メンバーが集まって話されているのをごらんになったということですか。

○貞森審議官 入っているはずだと思うんだけど、何で覚えてないんだろう。済みません、明確な記憶がないんです。

○質問者 これは、最終的に総理の指示という形で各省に伝えられているらしいのですが。

○貞森審議官 原災本部長ではないですか。原災本部長が決めたという形になっているのじゃないですか。違うかな。これは原災本部長の権限ではないのか。原災本部の権限ではないのかもしれないですね。そこはどのような指示になっているんですかね。

原災本部長の指示だということになれば、原災本部長たる総理の指示だということになるので。済みません、これは法的にどのような性格の指示だったかというのは。

○質問者 実際に上がったところは、経産省と厚労省からの告示・省令という形で上がっているんですけども、各省に告示とか省令の作成を進めろという事務手続が総理大臣からの指示として伝わっている。

○貞森審議官 ただ、少なくとも保安院や経済産業省であれば、みんなその説明に入っていますからね。それで了解をとったということで、上げたということだと思います。たしか 250 に上げるときには保安院や原子力安全委員会は入っていたと思うんです。

○質問者 総理の了解をだれがどういう形でとったかというところを、もし御存じであればお聞きしようと思ったんですが、そこら辺はないというですね。

○貞森審議官 済みません、そこまでのやりとりは覚えてないです。

○質問者 3月14日の未明ごろに、当時の安井部長が官邸の5階にいらっしゃったと思うんですけども、3号機への海水注入関係で手が回らなくなって、線量限度の告示の方を変えなければいけないということで、保安院の根井審議官を官邸に呼び寄せて、根井審議官に対応をお願いしたといった話がありまして、そういった場面には出くわされていないですか。

○貞森審議官 多分入っていたんだと思います。根井さんね。あのころは安井さんがメイ

【取扱い厳重注意】

ンで根井さんも時々という感じだったので、それはいかにもありそうな話だなという気がします。済みません、これは視覚的に記憶がないんです。

○質問者 今度は17日に、更に500に上げるという検討が官邸の中で行われていたらしいんですけども、この検討に参加された御記憶も特にありませんか。

○貞森審議官 こっちはよく覚えています。

官邸の総理の執務室に、担当大臣ですね。明確に覚えているのは、防衛大臣と厚労大臣がいましたね。経済産業大臣も多分いたと思います。それから、細野補佐官がいました。もう500に上げないとあれだということになって、たしか基本的に細野補佐官が提案したんだと思います。

結局、その場で担当関係の合意が得られなかったというか、反対されていました。一番明確に反対されていたのは、北澤防衛大臣です。大体こんな話が突然出てくるのはおかしいのではないかと。当然自分の配下の自衛官の命や健康に関わる話ですから、こんな性急な検討というのはおかしいのではないかと。特に、こういう話は必要性が出てから上げてはいけない、平時のときに冷静な議論をしてその基準を決めなければいけないという趣旨のことを北澤大臣がおっしゃっていて、結局合意が得られなかったというか、担当関係の了解が得られなかったという経緯でしたね。

○質問者 今、こういう話は必要性が出てから議論すればいいということですか。

○貞森審議官 いや、必要性が出てから引き上げたりすることはやってはいけないんだという趣旨のことでした。

○質問者 平時にちゃんと準備しておくべきだということですね。

○貞森審議官 そう。緊急時にこういうことを急にやってはいけないと。ちゃんと平時に基準を決めておかなければいけない。それを使わなければいけないんだということでしたね。

○質問者 17日の何時ごろとか、御記憶はありますか。

○貞森審議官 午後だったと思いますけどね。何かの会議の後で集まったのではなかったかな。

3月17日は、原災本部をやっていますか。原災本部とか、その種の関係が集まる会議があつて、それが終わった後で集まったのではなかったかなと思いますけれども、余り自信がないですね。とにかく午後でしたよ。

○質問者 経産大臣はどういうふうにおっしゃっていましたか。

○貞森審議官 覚えてないです。海江田さんが明示的にスタンスをとっていた記憶はないですね。

○質問者 防衛大臣が反対された後、もうそこで終わり。

○貞森審議官 それでこの話は通らないなという雰囲気になって、終わったと思います。

○質問者 そもそも、なぜ500ミリシーベルトに引き上げるという話が出たかは御存じないですか。

【取扱い嚴重注意】

○貞森審議官 それが私もよくわからないんです。何でいきなりこんなにぼんぼん上がっていくんだろうと。

これは累積でしょう。250が累積したら当分はだめなわけですね。だから、250でも作業員がいなくなってしまうかもしれないという議論があって、国際的には何だったかな、同意の上でボランティアする場合は無制限というのがあるんですか。

○質問者 はい。

○貞森審議官 もともとそれが国際的なあれなので、500に上げて大丈夫なのだという趣旨での提案だったと思いました。私も、この間250に上げたばかりなのだという感じで見えていました。

○質問者 その閣僚の方たちが集まっていた場というのは、この議論のためではなく、もともと何か集まることがあってということですか。

○貞森審議官 いや、総理の執務室にこのメンバーで集まったのは、まさにこの500ミリシーベルトを議論するためだったと思います。たしかそうだったと思います。何かほかにも議論したことがあったかもしれませんが、定期的な会議みたいなものがあったということではなかったですね。総理の執務室に、担当閣僚と細野さんが集まってという機会でした。

○質問者 このときは班目委員長はいらっしゃらなかった。

○貞森審議官 安全委員会もいたと思いますけれども、班目委員長がいたかどうかは記憶にないです。

○質問者 ありがとうございます。

○質問者 こちらからの質問はほぼ終わりなんですけれども、全体を通じてこういう危機的な状況のときにずっと官邸にいらっしゃって、我々は委員会で事実を積み上げていく中で、こういうふうにしておけばもっといい対応ができたということ、今後提言として書き込んでいく予定なんですけれども、貞森秘書官の方から、何かこういう点がこうであればもっとうまい対応ができたのじゃないかという御示唆があれば、御指摘いただければと思います。

○貞森審議官 そんな御示唆をするような偉そうな立場にはないです。

多分、別に私が固有にということではないと思いますけれども、やはり実際にここまでの事態が起こるといふふうに想定されてなかったということだと思います。私も含めて、ここまでの事故は起こらないというか、本当に起こると思ってなかったということだと思います。そういった意味で、もっと実際に起こる可能性があることをもう少しちゃんと事前につぶして、マニュアルなり、訓練なり、トレーニングなり、そういったことをもっと事前きちんとやっておくべきだったということだと思います。

とにかく非常用ディーゼル電源がやられなければ、ここまでの事態にならなかったわけなので、あの一事をとってみても、その後いろいろなことを言われていますけれども、実際に津波が来るという事態がきちんと想定されてなかったわけですね。ほかにもそういっ

【取扱い厳重注意】

たことがあったと思いますし、電源が途絶した場合も、ちゃんと想定はされていなかったということなので。

保安院の方では、緊急安全対策というんですか、今、そういったことをやっているということで、そういった努力が既に行われているとは思いますが、やはり根本的な問題は、本当に起こるかもしれないという前提で、いろいろな意味での備えがなされていなかったということなのではないですか。これはみんなが言うことだと思います。

○質問者 エネルギー行政にも関わっていらっしゃって、想定が十分でなかったという背景にある原因的なものについて、何か心当たりがあれば教えていただきたいんです。

○貞森審議官 今回の地震、特に津波は何百年前に起こっているらしいんですけれども、そうは言っても、少なくとも実際に日本でこれだけ大きい津波が起きたのは、近年余りないことですね。例えば100年に1回起こるかもしれないことに備えることは、どこまでコストをかけるのかということに関して、人間にとってみると物すごく難しいことですね。今になれば、結果的には間違っていたということはわかるわけですが、やはり事前にはわからない。

勿論、原子力に関しては安全がすべてだというふうにずっと言っています。言っていましたけれども、本当の意味でどこまできちんと追求するかというところは、実際に自分の目で見てないとわからないですね。

そういった意味で、人間の認識の限界というか、あるかもしれないと言われても、心のどこかで思ってしまいますね。起こるか起こらないかがわからないようなことにどこまで投資をするんだという思いは、人間には常にあるものだと思いますので、それが出てしまったということなんだと思いますね。

○質問者 1点だけよろしいですか。質問項目に含めてないことなんですけれども、また、個別的な話になってしまうんですが、貞森審議官は4月10日ごろに、政府と東電の統合対策本部の方に行かれていたということはございますか。

○貞森審議官 4月10日。

○質問者 ごろにですね。

○貞森審議官 統合本部には最初に行ったのと、あとは2回ぐらい行ったかな。1回か2回は行っていますよ。

○質問者 では、数えるほどしか行かれていないということですか。

○貞森審議官 はい。というのは、我々は余り行けないですね。

何かで行ったんですけれども、4月10日。

○質問者 ごろにですね。

○貞森審議官 わかりません。いつごろだったんだろう。そんなタイミングでは行ってないような気もするんですけれども、わからないですね。東電の方にそんな記録でも残っているんだったらそっちの方が。

○質問者 何か伏線があるわけではないので。わかりました。申し訳ございませんでした。

【取扱い嚴重注意】

○貞森審議官 よろしいですか。

○質問者 ありがとうございました。